

PDF版 松井茂久『警官陶冶篇』(増訂三版、明治25(1892)年2月18日刊)

1 解説

松井茂久(1862~1890)は、福岡県の人、少年時代に苦学をした後、二、三の役所の雇員等を経て、明治17(1884)年に福岡県属となり、同19(1886)年同県警部補に転じ、同20(1887)年夏にはヘーン大尉(1839~1892)が親しく指導した警官練習所の第3回警部受業生に選ばれて上京、入校し、翌21(1888)年夏帰県後は、当時の福岡県警察本部警務課に勤務、11月には同県警部に昇進する。この時期に、同県知事の安場保和(1835~1900、後に貴族院議員、男爵、後藤新平岳父)から、同県巡査教習所の教科書として警察官の修養書の執筆を命ぜられ、明治22(1889)年11月に、①『警官陶冶篇』(初版、福岡県警察本部、明治22年11月18日刊)として刊行する。

本書は、総論の他、「心術涵養」、「気韻品操」、「剛胆毅骨」、「温厚和平」、「思想緻密」、「勇断果決」(増訂再版から「勇決断行」に変更)、「質素節儉」、「容儀言語」、「学識培養」、「身体摂生」及び「勤勉強耐」の11章について詳述したもので、それぞれその本義を説き、名士の事例を多数挙げ、その理想とするところは高く、いずれも警察官の修養のために役立つ内容であった。

松井自身は、学識高く、仕事面でもすぐれた業績を挙げ、また、大変な偉丈夫であるなど極めて理想的な警察官であり、将来が大いに囑望されていたが、翌23(1890)年8月初め、検疫委員として当時猖獗したコレラの遠賀郡内実地視察中に罹患し、帰福後松原避病院に入院、治療するが、同月16日、28歳の若さで逝去した。

同24(1891)年7月、その逝去を悼んで、時の警視總監田中光顕(1843~1939、後に宮相、伯爵)、内務省警保局長清浦奎吾(1850~1942、後に首相、伯爵)等の序文を登載するとともに、籠頭に香月恕経(晦処、1842~1894)の「評」を載せた②『増訂再版警官陶冶篇』(刊行人松井マン(おそらく母か。)、明治24年7月18日刊)が出され、更に、同25(1892)年2月には、口絵として松井の肖像を掲載した③『増訂三版警官陶冶編』(扉は『警官陶冶篇』、版權譲受発行兼印刷者林斧介(林磊落堂主人)、明治25年2月18日刊)が刊行され、その後大正期まで版を重ねた。なお、現在判明している最終刊行版は、④『増訂三版警官陶冶編』(八版、扉は『警官陶冶篇』、福岡市・書林博文社、大正元(1912)年12月15日刊)である。

ここにPDF版として収録したのは、明治25年刊行の上記③『増訂三版警官陶冶編』である。初版にあった松井茂久「上警官陶冶篇表」は削除されている。

本書に関しては、夙に昭和初め、当時内務事務官(内務省警保局保安課)であった横溝光暉氏(1897~1985、後に内閣情報部長、岡山、熊本両県知事)に「警官陶冶編を読む」『警察協会雑誌』第318号(昭和2年2月)という詳細な紹介があり、同じく末期には、初版訳ではあるが『季刊現代警察』編集部訳「現代語訳警官陶冶篇」(上)、(下)『季刊現代警察』第36号(昭和59年7月)、同第37号(昭和59年12月)とか、渡辺忠威氏(1926~1987、当時警察大学校資料主幹)「『警官陶冶篇』を読む」『警察学論集』第38巻第5号(昭和60年5月)が出されている。更に、平成9(1997)年には、梅崎禎一氏「埋もれた明治の志一福岡県警部松井茂久の生涯」『紫水』第18号(福岡市・紫水会、平成9年7月)が公表された。この他、上記横溝光暉氏の著書である『警察修養録』(松華堂書店、昭和10年3月30日刊)、『行政道の研究』(第一法規出版、昭和53年11月15日刊)も、『警官陶冶篇』に言及している。これらにより、松井茂久『警官陶冶篇』については、既におおよそそのことが判明している。

2 目次(頁数は本PDF版による。)

扉・・・P02

口絵 「故松井茂久氏肖像」・・・P02

序文・・・P03

(1) 安場保和(福岡県知事、1835~1900)「題字」・・・P03

(2) 田中光顕(警視總監、1843~1939)「序文」・・・P05

(3) 清浦奎吾(内務省警保局長、1850~1942)「序文」・・・P06

(4) ウキルヘルム ヘーン(プロシア国警察大尉、1839~1892)「書翰」・・・P09

(5) 中原尚雄(福岡県警部長、1845~1914)「弁言」(序)・・・P10

(6) 松井茂久(1862~1890)「自序」・・・P11

本文・・・P13

[総論]・・・P14

[第1章 「心術涵養」]・・・P20

[第2章 「気韻品操」]・・・P34

[第3章 「剛胆毅骨」]・・・P37

[第4章 「温厚和平」]・・・P42

[第5章 「思想緻密」]・・・P46

[第6章 「勇決断行」]・・・P48

[第7章 「質素節儉」]・・・P53

[第8章 「容儀言語」]・・・P57

[第9章 「学識培養」]・・・P60

[第10章 「身体摂生」]・・・P68

[第11章 「勤勉強耐」]・・・P74

跋・・・P77

(1) 黒岩知新(内務省警保局警務課長、前福岡県警察本部警務課長)「跋」・・・P77

(2) 吉原直次郎(広島県警部)「跋」・・・P78

奥付・・・P79

(平成18年4月1日稿)

增訂

警官陶冶編

秋松井茂久著

全

增訂三版版權所有

子爵田中光顯序文
正四位安場保和題字
巽岩和齋新跋

中原尚繼序
故松井茂久著

敬言官陶治篇

清浦奎吾序文

林島藩堂撰

香月堀雄詳



故松井茂久氏肖像

心品定由

心品



定由

大氣
吹確

明治二十二年夏

高田勉二筆



高田勉二筆

福周縣警部松井茂久著
警官陶冶篇自心術涵養
至勤勉強耐逐章叙述殆
無餘蘊蓋平生所學期躬
行實踐故言皆中冑敷其
盡力職務超軼輩可矧

卷之四

三

見矣。天若假之年。勦其所
造。詣未可量。余雖垂生前
一箇之識。嘉其篤。凌。濯。覽
之餘。聊書一言。

庚寅十月子爵田中光顯

大書
此書福言縣志。刻於井
岸。久所為也。且遙寄。公
徵序。予余。一。海。而。未。果
也。故。久。已。逝。矣。余。之
對。此。書。豈。不。季。札。推。

劉子載或問希久平生
性庸志高余深惜不讓
之子生矣美乎觀其
著書才敏氣枯而乞
不侮至年一余又深惜

其不幸而不能盡志矣
嗚呼志之與才如歲久
高天與海之與空而遠
福未可得也嗚呼彼極
富貴利達醉生夢死

而無所去何如也
生則為人所重死則
為人所惜其名之與遺
書傳于世而不可朽死
之日猶生之日也淺矣

而有所去何憾乎

明弘治十三年十月清浦李君



欽定四庫全書

水

折無陳者之般貴殿法著述之
 警之官陶法篇片山氏之法贈與之
 榮之辱之鳴謝之至之絶之天法金玉篇
 品之貴之取之貴國教之官心事之高
 尚之以之字嚴厚スカラ并凡法律之執行
 者及之良民怒罵ナル恨議者ヲ造出セラ
 レント熱望セラレリ、敵報ノ至ニ法塵埃
 小生ハ貴ら、著述最良ニ結采ヲ

...

...

顯サレテ活目熱望仕候謹言

一子八百九十一年七月二十日

ウ井ル一ルム、ヘーシ

弁言



我の安場知事閣下部の發言友を交訓
する小良をなまきを真友一見其友は發言部
我友の命をまを編纂系せしめらる頃
日稿成りしを以て之を孰に度をもる小友の發言
友を陶冶するの道以き得て餘蘊なし誠
其旨を得たりと謂ふに雖於此も子依
りて真個發言家たる次員所負技能を専ら

文藝の用合書用

八

得を否とよむは後其人の用意如何を
里左人云一尺ヲ讀ミ得ルヨリハ寧ろ一寸ヲ行
ヒ得ルニ如カズと後志正しく此の意を體シ能く
後み能く行む事是き尚雄の企望は堪
ざる要なり今梓みよするは學ヲ教ふる
ニ志すること也

福岡縣警部長位七位中原尚雄識



白有 其書

新巻工支子如書中工支。福家
套襖曰。為主祿頃在。口條。女條
袴。上。支。子。居。新。巻。考。失。有。美。お
易。後。生。程。至。毎。弊。友。息。子。控。日
常。抄。執。抄。接。皆。無。不。在。妙。子。在
奇。張。解。潛。心。解。跡。切。積。則。其。身
進。修。之。益。必。倍。後。お。被。無。事。采
也。矣。蘇。久。曾。有。詩。云。每。年。苦。海。志

行存。刀茅。獨珍。定厥。頻。穢。所。從。
一。周。地。球。漫。然。控。杖。取。直。與。是。
唯。中。種。魚。成。爭。色。仔。細。視。察。則。
可。以。看。政。治。持。法。以。以。季。風。何。
美。同。可。以。看。古。代。治。革。以。以。先。
殖。產。隆。多。且。以。持。科。學。材。料。可。
有。卓。絕。識。見。可。以。偉。大。之。業。一。
感。上。悔。悟。也。向。是。地。球。一。周。
其。用。心。與。不。用。生。大。差。如。此。
嗚。呼。控。杖。如。擊。其。在。室。可。不。深。
思。笑。步。布。步。形。如。十。一。章。已。是。
以。孫。匡。者。蹟。之。網。標。也。其。控。杖。
擊。其。者。熟。讀。玩。味。日。考。其。其。境。
運。之。視。其。所。擊。其。神。能。解。自。白。
見。庶。然。有。新。便。於。之。視。矣。乎。
彼。未。出。洋。也。在。能。得。而。何。跋。暨。
者。能。得。趨。走。如。奔。之。而。能。何。矣。

文書同台書

未能盡其妙域。只望與後在。若
 目雅心憤。拋日科孝林。料存卓
 隨豫見。而偉古事業。以爲一大
 悔。技可也。

四伯廿三年清好。那多事初
 有首了。想。

凌雲高 松軒 孫之識



增訂 警官陶治篇
 三版

目次

總論

第一章	心術涵養
第二章	氣韻品操
第三章	剛瞻毅骨
第四章	溫厚和平
第五章	思想緻密
第六章	勇決斷行
第七章	質素節儉
第八章	容儀言語
第九章	學識培養

警官陶治篇

目次

第十章

身体孺生

第十一章

勤勉強耐

增補 警官陶冶篇

福岡縣警部 松井茂久著

同 縣海處 香月恕經評

總論

幾多ノ豫艦海ヲ蔽ヒ洋ヲ壓シテ。然カモ其豫艦ハ悉ク皆ナ
 精良無比ノ甲鐵堅艦ナリト雖也。機關手其人。身體微弱心術
 賤劣ニシテ。平素自身ニハ其技能ヲ脩ムルノ勇ナキノミナ
 ラス。勤勉刻苦耐忍不撓ノ精神ヲ鼓舞スルヲ能ハズ。常ニ狼
 狽ヲ極メ。爲スヘキノ時ニハ爲シ得ズ。決スヘキノ機ニハ果
 シ得ス。又他ニ向テハ其心術ノ賤劣ニ據リテ。舟子一般ノ損
 斥冷遇ヲ受ケ。水兵ニハ能ク令シ得ス。火夫ヲバ能ク制シ得
 ズ。縦横自在ナル活潑ノ運動ヲ爲シ得ザル也。則チ千豫不

本...

...

晦處曰々國家
 亦一犬鉄船
 ナリ若シ在朝
 ノ機關手技術
 拙劣ニシテ自
 在ニ運轉スル
 了能ハズ却テ
 在野ノ船客ト
 相和セズ船容
 モ亦ク常ニ機
 関手ト相軌リ
 相率ヒ相中ノ
 混雜止ム時ナ
 クンハ則チ敵
 國ノ掠奪スル
 所ト爲ラサル
 者幾ント希ナ
 リ豈懼レ且僕
 マザルベケン
 十是書モト警
 官ノ高メニ著
 セリト雖其
 義ハ則チ廣ク
 通スヘシ讀音
 宜シク留意ス
 ヘシク留意ス

艦アリト雖其果シテ是レ何ノ用ヲカナサム。只ニ以テ僥倖
 ノ掠奪ニ供シ敵軍ノ跋扈ヲ資クルノミ。警察官ノ社會公衆
 ニ對シテ。其職務ヲ行フモ尚亦タ如此。政府ハ時々世運ノ進
 動ヲ察シテ金條玉科ヲ發布シ輪奐タル警察署舎各地ニ
 建テ連子。威嚴アル制装ハ其身ニ纏フモ。警官其人ニシテ若
 シ當ヲ失シ宜シキヲ得サラムカ。金科玉條。莊宗嚴服。將タ何
 ノ用ヲカ之レ爲サム哉。加藤弘之諱國法汎論ニ曰ク。ゲして
 (獨逸人一千八百
 三十二年ニ死ス)嘗テひすとへむす(一種ノ惡
 鬼ノ名)ノ言ニ托シ作レ
 ル詩アリ吾能知結和警察官之術。然不知結和慘刺刑官之術
 ト。蓋シ鬼言ニ托シテ警察官ノ其職掌ニ勝ヘス。動モスレハ
 惡人ノ爲ニ籠絡セラル、ヲ謗ルナリ。
 夫レ普通ノ文武諸官ハ。多クハ皆ナ各其負擔ニ係ル職務ノ

ミヌ處理スレハ足レリ。即チ武衛ノ諸官ハ。單ニ剛骨ヲ養ヒ
 得テ兵術武藝ヲ精練シ。司法ノ官ハ。只タ公正ヲ守リ會計ノ
 官ハ。數理精確ナレハ能ク其當務ヲ舉クルヲ得ベシ。獨リ警
 察官ニ至リテハ一能一藝ハ云フニ足ラズ。實ニ十分ノ能力。
 技藝ナカラザルベカラズ。然ラバ其能力技藝トハ何ツヤ。心
 術。品操。健康。學識。果斷。節儉。緻密。耐忍。勉強。勇氣。膽略。溫和。風采。
 信用。等ノ數者ヲ兼併セザルベカラズ。此數者ヲ兼テ得テ。始
 ノテ真個ノ良警官タルニ耻ヂザルベシ。即チ心術ハ高明ナ
 ラザルベカラズ。品操ハ氷潔ナラザルベカラズ。健康ハ十全
 ナラザルベカラズ。法律ノ意義ハ。充分之ヲ熟了セザルベカ
 ラズ。社會ノ變遷人心ノ嚮背モ。之ヲ知悉セザルベカラズ。衛
 生學モ其大意ニハ通ゼザルベカラズ。宗教ノ何物タルヲモ

警察官同公口篇
 總論
 二

知ラザルベカラズ。警察官ノ職務ヲ執行スルニハ。實ニ凡百ノ事物ニ當ルヲ以テ。百科ノ學皆ナ多少ノ關係ヲ有セザルモノナシ。シカノミナラズ果斷力モ無ラザルベカラズ。節儉ノ質。緻密ノ性モ欠グベカラズ。耐忍モ必要ナリ。勉強モ入用ナリ勇氣モ存ゼザルベカラズ。膽略モ蓄ヘザルベカラズ。温和ノ氣象ニモ富マザルベカラズ。風采モ備ハラザルベカラズ。信用モ受ケ居ラザルベカラズ。實ニ警察官タルモノ、本色ハ。其体ヲ具スルノ小ナリト雖。聖賢ノ資質アリテ。英傑ノ智畧ヲ具セザルモノタラザルベカラザルナリ。余如此論下シ来ラハ。讀者ハ將ニ言ハムトス。巡查ノ如キハ真ニ是レ一小吏ニシテ俸給薄ク。真ニ是レ一微職ニシテ待遇厚カラズ。然リ而ノ却テ其身ヲ責ムルノ何ゾ嚴且ツ酷ナルヤ。其任

論スルノ何ゾ夫レ重且ツ大ナルヤ。昔シ晋ノ豫讓ハ。凡人ヲ以テ遇セラレレバ凡人ヲ以テ酬ヒ。國士ヲ以テ遇セラレレバ國士ヲ以テ之ニ酬フト云フニアラズヤ。巡查モ亦此ノ如キノミト。

嗚呼是レ何ノ言ヅヤ。自暴自棄其自ラ誤レルモ亦タ甚シキノ極ト云フベシ矣。夫レ昔時社會未ダ發達セズ。擾々タル戰國爭亂ノ時ニ當リテハ。牛驥ヲ別ツニ縁シナキナレバ宜シク此ノ如クナルベシ。故ニ諸葛孔明モ。名士ノ三顧ヲ俟タザレバ其卧房ヲ出デザリシナリ。然ルニ今ヤ事情一變如此モノニアラズ。即チ國家平寧政理漸ク密ニ。其組織モ益完全スルニ至リタレバ。世ノ國士タリ。龍象タラムト欲スルモノ。自己ノ究達ニ關セズ其任ノ存スル所。其位ノ在ル所ニ素

シテ。全有ノ腦カヲ發揮シ。職ヲ全フシテ以テ其身ヲ起シ其名ヲ揚ゲザルベカラズ。今日ニ當リ尚ホ徒ニ山林ニ高卧スルノ迂情ヲ抱キ。人ノ待遇ニ應ジテ其能力ヲ盡スノ程度ヲ異ニスルガ如キ。陋心ヲ存シ世ニ處スルモ誰レカ之ヲ顧ミルモノアラムヤ。語ニ曰食。人之禄者。死於人之事。ト宜シク畢生ノ精神ヲ盡シ以テ之レニ當ルベキナリ。

抑モ人中ノ龍トナリ。國家ノ名士タラムト欲セバ。區々人爵ノ如何ヲ心頭ニ存スベキモノニアラズ。若シ夫レ人爵ニ據リテ其身ノ輕重ヲナシ。其力ヲ盡スノ厚薄アルガ如キハ。眞ニ是レ俗人ノミ。眞ニ是レ汚吏ノミ。泰西ノ法語ニモ。人有價格。則職務有價格。ト云ヘルニ非ラズヤ。職務ノ價格ハ職務其物ヨリモ。寧口職務ヲ執ルノ人。其人ニ存スルナリ。故ニ高位

貴職ナリト雖_レ。賤劣ノ輩之ニ居レバ。其職位決シテ高貴ナラズ。輕位微官ナリト雖_レ。高邁卓犖ノ士。之ニ當レバ其位官決シテ輕微ナラズ。却テ其位官ノ卑下ナルガ爲メニ。愈益其光輝ヲ發揚スベキナリ。余倩ヲ思フニ天爵ノ人爵ニ於ケルハ其關係。恰モ猶ホ玲瓏タル大月ノ一穗ノ寒燈ニ於ケルガ如シ。即チ此ニ月光ノ照スナクムバ。寒燈モ少シク其微光ヲ放ツベキモ。此ニ月光ノ皎々タルアレバ。寒燈又夕何ノ用ヲカ之レナサム。僅カニ一家室内ヲ照スニ足ルヘキ微々憐ムベキ一穗ノ寒燈ハ。一陣ノ風籟襲ヒ來ルモ尚ホ能ク之ヲ滅スベシト雖_レ。乾坤大宇ヲ照スニ足ルベキ玲瓏喜ブベキノ大月ハ。千古歌々トシテ之レヲ滅セムト欲スルモ得ヘカラサルナリ。莊子曰日月出矣。而燭火不息。其於光也。不亦難乎。ト

嗚呼大丈夫世ニ處スルハ。須ラク寒燈ナキヲ憂ヘズシテ只
ダ月光ナキヲ憂フベシ。

余曾テ中仙道ヲ過ギ信濃山中ニ於テカ士雷電ノ碑ヲ一見
シタリ其文意ニ云フ昔者加州侯浚ニ於テ歌妓ノ舞曲ヲ觀
テ歎歎^{キヨキ}泣ヲ垂ル侍臣異シミ問フ侯曰ク此ノ妓女子ニ生レ
今天下第一流ノ女子ト爲レリ我諸侯ニ生レ未ダ天下第一
流ノ諸侯ト爲ルヲ能ハズ我甚タ此ノ女ニ耻ヅ是ヲ以テ悲
ムナリト云ヘリトカヤカ士雷電ハ信濃ニ生レ全國ノカ士
能ク之レニ敵スルモノナク遂ニ日本第一ノカ士ト爲レリ
我レ亦信濃ニ産シ身ハ士班ニ列ス然レ氏未ダ日本第一ノ
士大夫ト爲ルヲ能ハズ深ク地下ノ雷電ニ愧ヅト沈痛慨書
セリ其筆者ヲ讀下スレバ即チ是レ佐久間象山ナリ曾テ聞

象山未ダ志ヲ獲ヤルヤ樓榭屢々空シ然レ氏手翰ヲ裁
スルニハ必ズ精良ナル奉書紙ヲ用ヒタリ故ニ友人某一日
象山ニ謂テ曰ク余情ヲ子ノ近狀ヲ察スルニ糧食尚ホ給セ
ザルノ狀ナリ然ルニ居常奉書紙ヲ使用スルハ甚ダ贅澤ヲ
極ムルニ似タリト象山ハ之レニ答ヘテ否ナ我今日坎珂^{クンカ}踏
躓^ツ逆境ニ在リト雖氏若シ一朝志ヲ得バ我が筆迹ハ斷簡片
紙ト雖氏王公宰相ノ前ニ出ヅヘシ故ニ決シテ粗紙陋堵ヲ
用ウベカラザルナリト言ヒシトナム嗚呼吾人ハ徒ラニ順
境ヲ希ヒ人爵ヲ望ムベカラズ巡查タルモノハ警部補タラ
ザルヲ憂ヘズ只第一流ノ巡查タラザルヲ憂フベシ警部補
タルモノハ警部タラザルヲ憂ヘズ只第一流ノ警部補タラ
ザルヲ憂フベシ警部タルモノハ警部長タラザルヲ憂ヘズ

暗處曰君子之
 二居ラハ九表
 モ晒ナラス況
 シヤ警官ヲヤ
 世人動モスレ
 バ位階ノ高下
 俸祿ノ多寡ヲ
 以テ人品優劣
 ノ標準ト為サ
 シト謂フベ
 シ谷村圭助ノ
 事ヲ引ク適當
 明確儒夫ヲシ
 テ志ヲ立テシ
 ムニ足レリ人
 能ク誠實ニ天
 爵ノ貴ヲベク
 シテ人爵ノ心
 ヲ動スニ足ラ
 ザル所以ヲ認
 識セバ其見既
 ニ常人ニ過ギ

種ルヲ達シ
 必ズ是ヨリ上
 達セン

只第一流ノ警部タラザルヲ憂フベキナリ抑モ位ハ卑ク職
 ハ微ナリト雖氏若シ我ニ充分ナル天爵ノ在ルアラバ我が
 カヲ伸ベ我が名ヲ立ツルノ地^ニ綽^ニ然トシテ餘裕アルナリ
 讀者聞カズヤ故陸軍伍長谷村圭助ハ其官等ノ極メテ低ク
 極メテ微ナルニモ關セズ其心膽ノ毅強其行為ノ卓拔ナル
 竟ニ九段坂頭ニ巨大ナル軍人龜鑑ノ豊碑ヲ建設セシムル
 ニ至レルニアラズヤ余聞ク其碑ヲ建ツルニ當リテハ上陸
 軍大將ヨリ下兵卒ニ至ル迄其人ト爲リニ感ジ喜ムデ淨財
 ヲ義捐シタルヲ以テ爲メニ建設費金ニ餘剩ヲ生ジテ支出
 ニ苦ミ其碑文ヲ榻本トナシテ寄附金者ニ頒チタリト云嗚
 呼谷村圭助ハ一伍長ナリ俸給重ク待遇厚キモノニアラザ
 ルナリ然リ而ノ天爵ノ在ル處其勢遂ニ發シテ如此ニ至レ

リ豈ニ盛ナラズヤ
 顧ミルニ却テ世ニハ位ハ將官ニ登リ身ニハ赫烜タル金章
 ヲ纏フモ后世其名ノ傳ハラザルモノ殆ムド幾多アルヲ知
 ルベカラズ獨谷村伍長ノ芳名ハ幾歳ヲ經ルモ遂ニ滅却ス
 ベカラザルナリ於是乎益天爵ノ貴ムベク人爵ノ恃ムニ足
 ラザルヲ知リヌベシ嗚呼陸軍部内ニ於テハ谷村伍長已ニ
 軍人龜鑑ノ豊碑ヲ建テシメタリ他年我カ警察部内ニ於テ
 警吏龜鑑ノ巨碑面上ニ其盛名偉蹟ヲ大書セシムルモノハ
 果シテ誰ゾヤ西諺ニ曰天也者助^ヲ自^ラ助^ラ者^ト切至奮勵自ラ進
 ムデ止マザルモノ遂ニ此ノ榮ニ與カラム而已
 抑モ本編ニ於テハ上文ニ述ブル所ノ一穗ノ寒燈ニ屬スル
 丁ハ措テ言ハズ專ラ警官タルモノ飛揚セル塵埃ヲ洗ヒ暗

總論

六

々々タル雲翳ヲ拂ヒテ自ラ玲瓏タル月光ヲ顯ハスニ止ムベカラザル必須ノ要素ヲ説述セムトス。其能ク之ヲ洗ヒ之ヲ拂ヒテ其光ヲシテ真ニ赫々タラシムルヲ得ルヤ否ヤハ。讀者其人ノ自奮如何ニ存スル耳。

第一章

心術涵養

凡ソ宇宙間ノ萬物。發動運行スル所以ヲ靜觀熟視スレバ。皆ナ自動他動兩者ノ實動セル内ニ存在セザルハナク。即チ一己人ノ處世上ナリ。一國家ノ獨立上ナリ。悉ク此ノ作用外ニ超然脫出スルヲ能ハザルヲ知ルナリ。今試ニ我國ノ文明ニ就テ。之ヲ一言スレバ古來ヨリ文學ナリ。宗教ナリ。政治ナリ。法律ナリ。建築ナリ。模範ヲ支那朝鮮ニ取ラザルハナク。又タ近年開港以來ハ。右等ノ制度文物ヨリ。習慣風俗ニ至ル迄。一トシテ歐米各國ニ模倣セザルハナク。只其及バザランコトヲ是レ恐レ。敢テ自動的ノ精神ヲ發揮シ。苦ヲ積ミ。勞ヲ重テ。自我作古ノ發明ヲナサントスルモノ尠シ。故ニ我國ノ文明ハ。模倣的文明即チ他動的文明ト云フモ。敢テ不可ナキヲ信ス。

晦處曰歐風東漸以來八ヶ自
由ヲ論キ家個
民權ヲ論シ個
人ト呼ビ國家
ト叫ブト雖天
眞ニ能ク自由
民權ヲ理コ知
ル者果シテ幾
少ナリヤ

ルナリ。

然ラバ則チ其自他而動ノ效果ニ至リテハ。果シテ如何ナル
モノナルヤヲ觀察スルヲ怠ルベカラザルナリ。余ハ今此
ニ運動法ニ就テ述ベントス。乘船乘馬ハ是レ他動的運動ナ
リ。体操撃劍ハ是レ自動的運動ナリ。撃劍体操ノ乘馬乗船ニ
於ケルヤ。其勞逸ニ非常ノ徑庭アルガ如ク。其運動ノ效果ニ
至リテ。大差ヲ生ズルハ。已ニ讀者ノ熟知スル處ナリ。又之ヲ
衛生法ニ就テ説カムニ。終年兀坐精ヲ盡シ神ヲ凝シテ四肢
ヲ勞セズ。輕衣熊席只獸肉鳥魚ヲ食ヒ鷄卵牛乳ヲ啜ルハ。是
レ自動的衛生ヲ怠リテ。他動的衛生ヲナス者ナリ。之レニ反
シテ淡飯粗食纜力ニ飢餓ヲ免カレ。敝衣短褐_ニ凍ニ垂ント
シ其身ヲ苦シムルモ。星ヲ戴キテ行キ月ヲ蹈テ歸リ。日夕健

生ノ遙ニ他動的衛生ニ勝ル所以ハ。彼ノ學者紳士ノ錦衣玉
食自愛ヲナスモ。身体常ニ孱弱ニシテ。農夫工人ハ薄衣素食
ニ安スルモ。身体剛健ニシテ能ク事ニ堪エ_ルヲ以テ知りヌ
ベシ。

以上説キ來タル如ク。大ハ一國ノ文明ヨリ。小ハ一身上ノ衛
生ニ至ル迄。仔細ニ觀察スレハ。悉ク皆判然自他而動ノ中ニ
在リテ運行スルヲ知ル。世間何物カ此ノ實動外ニ出ルヲ得
ン。故ニ吾人ノ品性ヲ陶冶養成スルニモ他動的ヨリ馴致ス
ルモノアリ。又夕自動的ヨリ鍛練スルモノアリ。彼ノ困ヲ排
シ難ヲ破リ。堅忍強耐他ノ毀譽ヲ顧ミズ。獨立獨行自ラ信ズ
ル所ヲ斷行シ。高志卓犖一世ヲ睥睨シ。偉蹟ヲ奏スルガ如キ

迷馳スルハニ
 如ク者流ニ
 能ク何事ヲカ
 儀得ン此篇所
 論真ニ能ク我
 心ヲ獲タリ余
 嘗テ隨筆アリ
 名ヲテ自集集
 ト曰フ敢テ以
 テ人ニ示サス
 此篇論ズル所
 ト稍相以タル
 者ヲリ因テ之
 レヲ摘記シテ
 評語ニ代テ學
 者以誠意為主
 苟意不誠則
 有甚事則有
 其功其心存
 於誠者居煩
 不素當難
 惑。致功業名
 譽。隨而成功
 古米聖賢之功
 名。皆是誠之
 發耳。聖賢豈
 初有功名心否
 矣乎。大學之
 教。主定靜安
 者。將以應萬
 事也。若地物
 用。亦何學之

大塩俊素

ハ。獨自動的精神ヲ存養セルモノ、爲シ得ル辨ニシテ。決シ
 テ他動的ニ馴致セラル、モノ、爲シ能ハザル所ナリ。此ノ
 他動者流ハ。困難ニ際之テハ忽チ沮喪シ。勢威ニ會シテハ立
 ドコロニ恐怖スルノミナラズ。所謂富貴不淫、貧賤ニ樂ム男
 兒到此是、英雄ト云フガ如キノ高骨氷操ハ到底保チ得ザル
 モノナリ。果シテ然ラハ吾人此ノ自動的ノ精神ヲ存養セン
 ト欲セバ。如何セバ可ナルヤ。余ハ斷ジテ言ハムトス。之ヲ養
 フニハ。心學ヲ除テ。他ニ之ヲ求ムルノ道アルヲ知ラズト。
 余竊ニ近代我國ニ於テ傑出セル諸名士ヲ歷觀スルニ。悉ク
 皆ナ此ノ心學ヲ沈潜努力シテ精研シ。自動的ノ精神ヲ涵養
 シ得テ之ヲ行爲ノ實ニ顯ハシタルモノニアラザルハナシ。
 即チ彼ノ夙ニ道德ヲ以テ顯ハレ、近江聖人ト呼バレタル中

江藤樹ハ。陸王ノ心學ヲ數百年ノ後ニ在リテ。不傳ノ迹ヲ繼
 デ。始メテ我國ニ祖述セシ不世出ノ儒宗ナリ。而シテ近世第
 一流ノ政治家ト仰ガレタル。熊澤蕃山モ。實ニ其門ニ出デタ
 リ。藤樹ノ道德家ナリ。蕃山ノ政治家ナリ。皆世用アリ。眞價ア
 ルモノニシテ。先ヅ指ヲ屈スベキモノハ。皆他ノ學流ニ出デ
 ズシテ。獨リ斯ノ心學派ノミヨリ出デリ。降テ天保ハ年代ニ
 至リ。昇平二百五十餘歳ノ後ヲ承ケ。日本全國。上トナク下ト
 ナク。皆麻酔劑ニ浸サレタルガ如ク。奢靡偷安ノ間ニ。此生ヲ
 送り官吏ハ只其祿ヲ貪リテ世ヲ救フノ念ナク。富者ハ自己
 ノ榮華ヲ極メテ他ヲ顧ミズ。貧者ハ飢渴ニ迫マルモ之ヲ訴
 フルノ所ナシ。事ノ良否ハ姑ラク措キ。此ノ時ニ當リ大聲疾
 呼自動的ノ精神ヲ鼓舞シ。奮然蹴起シテ天下ノ懶眠ヲ攪破

心術涵養 九

シタルモノハ誰ゾ。即チ大坂ノ與力大塩後素是ナリ。後素ハ
夙ニ王陽明ノ心學ヲ修メ。知行合一ノ說ヲ尊重セルモノナ
リ。其未ダ事ヲ舉ゲザル以前ノ行爲ヲ視ルニ。品行端正ニシ
テ已ヲ謹ミ人ニ下リ。早出晚退滿腔ノ精神ヲ以テ職務ヲ盡
シ。貨利財賄ヲ顧ミズ。權勢威力ヲ畏レズ。只此ノ正義ヲ實行
スルヲ知テ其他アルヲ知ラズ。阿曲セズ。雷同セズ。官位高カ
ラズト雖也。學德實ナル凛乎タル一傑士ニシテ。滿府之ヲ敬
憚シテ措カザリシト云フ。其在職中ノ吏績實ニ枚舉スルニ
遑アラズ。後素ハ此ノ學アリ此ノ行アルヲ以テ。頼山陽ハ之
ヲ呼ムデ小陽明ト稱セリ。後素致仕ノ日一詩ヲ賦セリ。以テ
其一斑ヲ見ルニ足ルベシ。

招隱之詩並引

政十丁亥之歲。迺吾官長高井公莅位之七年也。是歲之夏
七月。公命余捕索耶蘇之邪黨于京攝之間。以窮治之不
日招伏就焉。公申呈之府。々聞之于東都憲臺。經三年之久
而發落矣。妖邪煽誘庶民之害。於是乎稍息。十二年己丑春
三月。公又命余糾察猾吏姦卒與豪強潛通隱交。以蠹政害
入者。而其所注連及要路之人。臣僕歷世之官司。非不知之。
盖有所怖且憚。而遁之歟。若爾不憂世思民之甚者也。余
感公之忠憤。終置禍福利害於度外。潛圖密策。施疾雷不掩
耳之遺意。以摘其仗發其奸。魁首自及。余黨各就刑于藁街。
殛死者若干人。舉其賊有三千金。皆是民之膏血也。散之以
肇建賑恤。獨之法。姦猾蠹蝕庶民之害。於是乎又漸除而

無告人亦麻幾。蘇息矣。三年庚寅春三月公又命余決汰
浮屠之汚行。夫不與檢束浮屠幾年。年于茲。故肆然。狂婦女
食魚鳥焉。甚於無賴之年少。其羶腥汚穢。舉邦皆然矣。不
徒此一方也。若急理之。則必不堪。繁刑。故敷訓戒之令。既
及再三。終逮捕其不悛者。猶數十人。盡流竄海島。使與邦人
不齒。僧風於是乎一變矣。且京北南都界浦。亦風靡。其官司
各黜貪饕吏。誅姦邪僧。無皆不出于公之後。然則公之舉
諸衙之嚆矢也哉。而公年垂七十。其秋七月上。養病之
疏而未允。嗚呼。餘齡則卅有七。職則卑賤。而言聽計從。關
大政。除荷蠹。鋤民害。規僧風。豈非千載之一遇乎。而公之
進退乃如此。義不得不共棄職。以招隱。而觀陳眉公讀書鏡
所載。包明之於陽岐王也。不顧妻子之飢寒。弄職。不往於

江公徯之府。則余雖俗吏。讀聖賢之書。從事良知之教。能無
感于心乎。將見公之去而混樵漁之伍。故賦招隱之短篇。
昨夜閑窓夢始靜。今朝心地似僊家。誰知未乏素交者。秋菊
東籬潔白花。

又此ノ大坂ノ暴舉ニ際シ。憤然自動的ノ精神ヲ奮ヒ。其死ヲ
決ンテ暴徒ヲ論難シ。彼レガ兇刃ヲ以テ其肌ニ迫マルニ及
ンデ。莞爾手ヲ洗ヒ襟ヲ開テ端坐シ。刀ニ伏シタル烈丈夫ハ
誰バ即チ後素ガ門人宇都木矩之允是ナリ。其諫呼ノ前夜。矩
之允ハ深更人定マルノ後。孤燈ヲ挑ク。數行ノ文字ニ千條ノ
血淚ヲ注テ。双親ニ永訣スルノ書柬ヲ裁ス。之ヲ讀下セバ以
テ其心膽ノ毅然タルヲ知リヌベシ。

一筆申殘候。追日暖和相成候處。御兩親様奉始。益御機嫌

克可被成御座奉恐悅候。然者私儀先達小倉表より申上候通。雨天勝に候得共。日積大体十七日の夕刻。大坂安治川へ着船仕。四ヶ年以前出立之砌師弟之契約仕候。平八郎天魔身に入り候哉。存外之企有之。大坂町奉行と討取。其外市中放火致し候而。御城とも乗取可申杯と企候謀反にて。私荷擔可致被申強テ申聞候に付。種々諫言致し候得共。申出候事返さぬ氣性故。容易には承知も仕聞敷奉存候。乍去此儘見捨歸り候ては。武士道不相立。其上斯の如き大望相明し候事故。生ては返し申聞敷。乍去荷擔仕候得は。第一は御家の御名を穢し。忠孝の道に背き師と見捨ては義理立不申。無據一命を差出し。今夜平八郎始め徒黨の者共へ篤と利害を申聞。忠孝仁義相立候様

仕度奉存候何共重々御前様萬端宜敷御機嫌宜敷奉願候。是迄厚き御慈愛を蒙りし私。歸國も無程と御待も被下候儀と奉存候得者。猶更歸國難忘事。未練の者と思召も耻入候仕合に御座候。斯る時節に参り合せ候は。私武運は盡候儀と奉存候。様々具に申上度候得共。何れ則日様子は御地へ相知れ可申候間不申上候。大坂騒動と御承知被下候は。矩之允儀は相果候義と被思召可被下候。最早時刻に可相成心急ぎ荒増申上候。餘は御察奉願候以上。

二月十八日

宇都木矩之允

尚々友藏義永々旅中厚世話致具候。未だ一禮も不致相別れ申候間。宜敷御傳可被下候以上。

抑後素ノ矩之允ノ論ズル如クナレバ暴擧ナリ。矩之允ノ非
ヲ知テ之ニ與ミスルモ皆精義ノ許ス處ニ非ズ。但矩之允ガ
此ノ如キ汚濁優柔ナル時世ニ當リ。獨リ毅然トシテ進退義
ニ仗リ。難ニ臨ンデ苟モ免カル、丁ヲナサズ。從容命ヲ授タ
ルハ其學術充分ノ素養アルニアラザレバ能ハザルナリ。然
リ而シテ其薰陶ハ後素ガ與ヘタル所ニシテ。全ク心術涵養
ノ結果タルニ外ナラザルナリ。

水戸ノ烈士藤田東湖ノ如キハ。其卓乎タル意氣。凜乎タル精
神。實ニ懦夫ヲシテ奮起セシムルモノアリ。然ルニ余嘗テ水
戸人士ハ全ク史學ニ據リテ士氣ヲ振作シ。東湖自身ノ如キ
モ。專ラ其力ニ據リテ馴致シタルモノナリト聞キタルニア
ルモ。竊カニ信ヲ措カズ。疑訝胸中ニ往來セシガ。果セル哉肥
左ノ記事アリ。

水藩藤田虎之助(東湖)と訪ふ。此人久しく名を聞く。當時し
らべ方元締と云役也。ちうべ方元締と云は本藩にて御奉行
より御近習御取次を兼たる様の役也其人辨舌爽に。
議論甚恣。學意は熊澤蕃山湯淺常山杯にて。程朱流の究理
を嫌ひ。専ら事實に心懸たる様子なり。從來水戸士にて八
年前より。先年中納言様御家督の節。山の邊兵庫を歎抱し。
江戸に上り大事を定しとば。其藩士の著せし龍宮夢物語
に委しく。偏く世人の知る所なり。我が訪し時は未だ退公
せずして。暫待し内に歸り直に應對極て神速たり。布の肩
衣。奈良の古帷子。葛の袴。脇差は鐵金具にて。木綿糸を太刀
巻に巻き。欄ハ皮包なり。當年三十七歳色黒の大男中々見

事なり。都下華奢の風と嫌ひ。專武事に心懸け。公務の暇には藩中の子弟を引立。尤鎗劔に達したる由なり。中納言様思召格別にて。此春の頃百石の加増加へられ。席も被進たるなり。當時諸藩中にて虎之助程の男は少かるべし。先年の兇荒水戸に限り三年の貯有りて。其民流亡に至らざる。と風説を承りしは虚説なり。虎之助咄に。其節は極々の難澁にて。僅に國民の餓を免れたる迄なり。必竟仙台杯は比れば。天災も薄くして少しは五穀も出来たる故に。先や角と押し凌しなり。當秋も不作なれば。一切に何の手當も不付。今より上下氣遣するとの咄なり。

訪藤田虎之助夜話極道和虎之助韻

無義内外書ハ
新ナ熱澤著山

温酒寒園夜摘籠心交藤田虎之助夜話極道和虎之助韻
議論不熟冷於水

傳説集義内外書

由是觀之即チ東湖モ亦タ心學者ノ一人ナリ。其嶄然頭角ヲ一世ニ顯ハシタルモ。決シテ偶然ニアラザルヲ知ルベシ。小楠ハ世人業ニ已ニ實學派ト云ヘル一種ノ名稱ヲ下シタル如ク。特ニ實學的ノ學者ナリシトハ。余ガ喋々ヲ俟タザル處ナリ。我が福岡縣下柳川ニ池邊節松ナル人アリ。小楠ノ門人ニテ曾テ維新ノ際參與トナリ。目下ハ退隱老ヲ養ヘリ。余ハ同地ニ出張ノ節。寸閑ヲ偷ミテ翁ヲ訪ヒ。先ヅ第一着ニ小楠ノ平素懷抱主持セシ所。及ビ諸生ヲ薰陶セシ大主腦ハ。那邊ニ存在セシヤト質問セシニ。翁曰ク小楠ノ平素尤モ尊ブ所ハ動機ヲ達觀スルニ在リ。亦タ其所長モ此ニ在リテ存ズ。常ニ書生ヲ教訓スルニモ。只管軀殼ヲ去リテ真相ヲ看破セン

丁ヲ以テセリ。故ニ嘗テ小楠門人等ニ向テ謂ルコトアリ。爾等
淨瑠璃ト聞カバ其文句ノ如何ニ関セズ。直ニ厭忌ノ情ヲ起
シ。謠イト聞カバ其舞曲ノ何タルヲ論ゼス。之ヲ喜ブノ情ア
ルハ何ゾ哉。是レ全ク形式ニ拘ハルノ弊ナリ。仔細ニ之ヲ吟
味スレバ。淨瑠璃ニモ高尚ナルモノアルベク。謠ニモ猥褻ナ
ルモノアルベシ。百般ノ事物亦タ皆然リ。外形ヲ去リテ而メ
後真相顯ハレ。真相顯ハレテ而メ後始メテ機顯ハル。其機ヲ
見テ而メ後斷行スレバ天下何事カ成ラザラムト。此翁ノ答
ヲ以テ觀レバ小楠ノ學術ハ區々文字ニ拘泥スル如キモノ
ニアラズ。夙ニ卓見家ノ芳譽ヲ負ヒシモ決シテ偶然ニアラ
ザルヲ知ルベシ。

鳥高左藤一齋ハ。當時ノ祭酒林氏ノ家學ヲ奉ジテ。而シテ其
中心ニ主トスル處ハ。純然タル餘姚學者ニシテ。其著書言志
録ノ如キハ。大ニ吾人ノ心術ヲ存養シ。吾人ノ意氣ヲ警發セ
シムルニ足ルモノアリ。故ニ西郷隆盛ノ如キハ之ヲ手抄シ
テ常ニ坐右ニ置キ。講究ヲ怠ラザリシト云フ。近頃南州手抄
トテ隆盛ノ手抄ヲ出版シ。秋月種樹之ニ序シ。南州之學術基
於餘姚^ニ及^テ得^ル此^ノ書^ヲ始^メ信^ス焉^ト特書セルヲ見ル。曾テ我ガ福岡
ノ頭山滿^{少壯}ノ時鹿兒島ニ遊ビ隆盛ノ愛讀措カガリシ處
ノ一部ノ書籍ヲ。同家ヨリ強テ借用シ來リタルコトアリシト
聞キシヲ以テ。如何ナル書ナリシヤヲ其友人ニ問フニ。是レ
即チ大塩後素ガ著シタル處ノ洗心洞割記ナリシト云フ。又
夕近來世間ニ南州遺訓ナルモノ出デタリ。余之ヲ閱スルニ
左ノ數語アリ。以テ隆盛ノ學術ヲ窺フベキ也。

一萬民ノ上ニ住スル者。已レヲ慎ミ品行ヲ正クシ。驕奢ヲ戒ノ節儉ヲ勉メ。職事ニ勤勞シテ人民ノ標準トナリ。下民其ノ勤勞ヲ氣ノ毒ニ思フ様ナラデハ政令ハ行ハレ難シ。

一已レニ克ツニ事々物々。時ニ臨ミテ克ツ様ニテハ克チ得ラレヌナリ。兼テ氣象ヲ以テ克チ居ヨト也。

一學ニ志ス者規模ヲ宏大ニセズバ有ル可カラズ。去リトテ唯此レニノミ偏倚スレバ。或ハ身ヲ修スルニ疎ニ成リ行クユエ。終始已レニ克チテ身ヲ修スル也。規模ヲ宏大ニシテ已レニ克チ男子ハ人ヲ容レヨ。人ニ容レラレテハ濟マヌモノト思ヘ。

一道ニ志ス者ハ偉業ヲ貴バヌモノ也。司馬溫公ハ閨中ニテ語リシ言モ。人ニ對シテ言フヘカラザル事無シト申サレタリ。獨ヲ慎ムノ學推テ知ル可シ。人ノ意表ニ出テ一時ノ快適ヲ好ムハ未熟ノ事ナリ。戒ム可シ。

一節義廉耻ヲ失テ。國ヲ維持スルノ道決ノ有ラズ。西洋各國同然ナリ。上ニ立ツ者下ニ臨テ利ヲ爭ヒ。義ヲ忘ル。時ハ下皆ナ之ニ倣ヒ。人心忽チ財利ニ趨リ。卑吝ノ情日々長ジ。節義廉耻ノ志操ヲ失ヒ。父子兄弟ノ間モ。錢財ヲ爭ヒ相ヒ讐視スルニ至ル也。

近世ノ卓識家ヲ以テ聞ヘタル奇傑。佐久間象山ハ佐藤一齊ノ門下ナリ。吉田松蔭ハ象山ノ薰陶ヲ蒙レリ。是等皆其心術ヲ鍛練シテ自動的ノ精神ヲ鼓舞シタル人物ナリ。又雲井龍

雄ノ如キハ大義ヲ誤リ。身ハ空シク斷頭場裏ニ委スルト雖
氏。其激烈ナル精神。果敢ナル意氣ハ。實ニ懦夫ヲシテ志ヲ立
シムルノ傑士ナリト云フベシ。元警視副總監綿貫吉直ハ。專
ラ龍雄ノ事件鎮撫ニ從事シ。親シク之ヲ鞠訊セシメアリシ
趣ニテ。同氏ノ言ニ據レバ。維新以來國事犯人數多アルモ。其
剛膽ニシテ奇抜ナルヲ。恐クバ龍雄ノ右ニ出ルモノアラザ
ルベシト云ヘリ。依テ余ハ爾時竊カニ龍雄ハ如何シテ如此
心膽胸次ヲ涵養シ得タルモノナリヤヲ疑ヒ居リシニ。一日
學暇ニ上野公園ヲ散策シ。歸途谷中ノ天王寺ニ過リ龍雄ノ
墓碑アルヲ見ル。之ヲ讀下スレバ即チ幼而篤信餘姚學ト書
セルヲ見ルナリ。於是乎余ハ益々心術涵養ノ必要ヲ信シ愈
々心學研究ノ欠グベカラザルヲ思フナリ。

基督教
七

我國ハ嘉永開港以來百度革新交通頓ニ開ケ。船載ノ學
術大ニ人心ニ注入シ。忽チニシテ固陋寡聞ノ弊習ヲ一掃シ
タリト雖也。一利アレバ一害之レニ伴フテ起ルハ數ノ免カ
レザル處。今ヤ智巧技藝ノ末ハ。大ニ進歩ノ狀ヲ形ハシ。實ニ
造化ノ妙エヲ奪フ程ナルモ。其道心ニ至テハ。衆皆ナ進ンテ
據ル所ナク。退テ守ル所ナク。泛々焉。飄々然。恰モ瓢ノ水面上
ニ漂フガ如シ。胸中一モ主宰トシテ守ル所ノモノナク。主人
公トシテ養フ所ノモノナシ。是ヲ以テ只流世ノ風潮ニ是レ
追隨シ。時アリテハ浮華ニ馳セ。時アツテハ客氣ニ誘ハレ。其
狀實ニ慨歎ニ堪ヘザルモノナリ。故ニ今日ニ當テハ余ガ所
謂道義ヲ講究シ。心術ヲ存養スルノ必要一層切實ナルヲ感
ズ。嗚呼余ハ此ノ研究此ノ涵養ヲ欠ギテ。他ニ吾人ヲ發奮セ

シタ吾人ヲ卓立セシムルノ方法ナク。實ニ吾人主脚ノ地盤
此ニ在リテ存シ。隨テ一國樹立ノ基本モ。此ニ在リテ存ス
ルヲ確ク信ジテ疑ハザルナリ。

王陽明白。破山中賊易。破心中賊難。嗚呼心術ノ涵養モ亦タ難
イ哉。雖然人トシテ平素心術ノ涵養ヲ事トセザルモノハ。其
胸中ニ確乎不拔ナル主宰ヲ養ヒ得ザルモノハ。恰ヒ楫ヲ折
ルノ小舟大洋ニ漂ヘルガ如ク。流俗ノ風潮ニ隨テ毎ニ其身
ノ方針ヲ動カスノミナラズ善事ニ逢へば善ヲ行フベキモ。
惡事ニ會スレバ亦タ之レニ染マザルヲ得ズ。吾人若シ此ニ
至レバ所謂醉生夢死。徒ニ人面ニシテ蠢爾トシテ此世ニ浮
游スルニ異ナラザルナリ。故ニ敢テ自奮自勵シ。正理ニ進ミ
否理ヲ排スルノ勇アルヲ能ハズ。古人之ヲ家屋ニ比スレバ

主宰ナキノ方寸ハ。恰モ路傍ニ於ケル堂宇ノ如シト云ヘリ。
即チ迂堂ニハ主人公ナキガ故ニ。時アツテハ王公相將モ過
ルベシ。時アツテハ乞丐偷盜モ踏スベク。時アツテハ賢婦哲
女モ憩フベシ。時アツテハ姦婦褻女モ潛ムベキナリ。若シ夫
レ主人公アラムカ。三尺ノ陋軒ナリト雖モ。其主人公ノ品價
如何ニ從フテ。中庸ノ人物ニハ中庸ノ人物往來スベシ。高尚
ノ人物ニハ高尚ノ人物出入スベシ。所謂名士ノ門ニハ往來
ニ白丁ナク。君子ノ坐上ニハ談論ニ汚點ナキモノ是レナリ。
此ノ方寸モ亦然リ。光明赫奕タル本尊アレバ不良ノ觀念生
ズベキモノニアル。不良ノ言論行爲アルベキニアラズ。嗚
呼自反慎獨心術ヲ涵養スルノ要亦タ大ナル哉。然ラバ則チ
之ヲ涵養スルノ方法ハ如何。余思フニ心學ヲナスニモ。亦自

カラ種々ノ差別アリテ存ス。即チ俠士劍客ハ氣ヲ以テ養ヒ。儒者佛家ハ理ヲ以テ養フ。然レ凡只管氣ニ專ラニシテ理ヲ顧ミザルハ。暴虎馮河ノミ。斯道ニアラザルナリ。只理ヲ養フテ其知其行ニ合シ。自然意氣剛烈ニ至ルモノ。是レ吾人ノ正ニ法トルベキ處ノモノナリトス。然ルニ理ヲ以テ存養スルニモ。亦タ能ク精考スレバ。其中ニ自カラ自他兩動ノ別アリテ存在スルヲ知ル。即チ彼ノ禪家ハ文字ヲ立テズシテ兀坐見性ヲ求メ。儒家ハ經ニ據リテ誦讀道源ヲ探ルニ。禪家ハ廓爾神悟スルモノ多ク。儒家ハ豁然大通シ得ザル弊アリ。於是乎余ハ知ラズ。概シテ他動的ノ講習ヲナスモノハ。多クハ腐儒俗僧トナリ。自動的ノ講習ヲナスモノハ。自然達士ノ風骨ヲ備フルニ至ルベキナリ。

凡ハ事物ヲ講明スルニ。專ラ物体ニ據ルハ。思想眼線共ニ專ラ之ニ注イデ。其本体ヲ達觀シ得ザルヲ多シ。禪家ノ手ヲ舉ゲテ月ヲ指セバ。人其月ヲ見ズシテ唯其手ヲ見ルト。嘆嗟セシモ亦宜ナリト云フベシ。陸象山モ云ヘルアリ。六經是吾人心性之註譯也ト。抑モ聖賢ノ書ヲ讀ムハ。自己ノ良知ヲ明メムガ爲メナリ。己ガ良知ヲ閣テ徒ラニ文字上ノ講究ノミニ從事シ。高志卓行ノ人士トナラムト欲スルモ。猶ホ木ニ攀テ魚ヲ求メ。水ヲ掬シテ月ヲ採ルニ異ナラズ。切至其效ヲ積ムモ到底得ベカラザルナリ。彼ノ古來輩出セシ幾多ノ英雄豪傑。未ダ必シモ陸王ノ學ニ從事セシモノニアラズ。只内省自反ノ工夫ヲ存スル者遂ニ能ク道ニ詣ルベシ。陸王ノ專ラ良知良能ヲ主トスルモ。亦タ其已レニ在ル者ヲ求ムルニ外

ナラズ。居業録ニ曰體驗二字。學者最親切也。讀者須就自己身上體驗來。不然則書自書而我自我能濟甚生事哉。ト然レ氏又其體驗ニ當リテ本体ヲ認メズ。徒ニ枝葉上ニ勵ムヲ古人之ヲ空錯ヲ煮ルト戒ム。深ク鑑ミザルベカラザルナリ。孟軻曰學問之道無他求放心而已ト。

夫レ警察官ナルモノハ。世波俗潮ノ外ニ超然屹立シテ高ク眼光ヲ着ケ。遠ク利害ヲ見。以テ苟モ弊風頽俗アレバ。毎ニ之レガ矯正ヲ怠ルベカラズ。所謂江漢以濯之。秋陽以暴之。精神ヲ淬勵セザルベカラザルナリ。然レ氏古賢をくらちリテ言ヘルトアリ。欲動人者先自動ト。夫レ然リ先ツ己ヲ修メズンハ。決シテ他ヲ改ムル不能ハザルナリ。故ニ自己身上平素自反ノ功ヲ積ミ。慎獨ノ勞ヲ重テ。我が心裡ニ泰然タル主

事自喜始良樂未發人時具足セル處ノ煙々蕩々タル心想ヲ認識シテ失墜スルトナク。恰モ母鶏ノ眼ヲ張リ翼ヲ斂ノ卵子ヲ擁護スルガ如ク。猫ノ銳牙ヲ怒ラシ。鈎爪ヲ露ハシ。黠鼠ヲ蹲マリ睨フガ如ク。專心一意死生不移ノ勇志ヲ發揮シ。其道念ヲ相續セザルベカラズ。心術涵養ノ道。須ラク如此深潛篤實ニシテ。幾多ノ歲月ヲ重テ。方ニ能ク粗厲ノ氣ヲ消シ。浮躁ノ心ヲ制スヘキナリ。工夫ノ純一此ニ至テ。卓乎タル剛健潔靜ナル道心。我ニ具ハリ死生禍福何カアラム。亂民紛到スルモ我ヲ脅スニ足ラズ。貨利財寶我ヲ移スニ足ラズ。浮聞虚譽我ヲ誘フニ足ラザルナリ。故ニ斯心ノ發表スルヤ。喜怒哀樂皆節ニ中リ。勇敢ニ當テハ徹底勇敢。持重ニ當テハ徹底持重ナリ。恭敬ニ當テハ徹底恭敬。慈愛ニ當テハ徹底慈愛。孟軻

睡處曰ク著者
心術涵養ノ道
亦體験ヨリ得
来クル故ニ之
ヲ論ズルレバ
切ナリ然レバ
常人ニ在テハ
道体ヲ認識ス
ルノ甚ク容易
ナラズ是レ道
ノ人ニ遠キガ
為メニ非ズ我
ヲ誘フ者甚ク
衆ケレバナリ
凡ソ外ニ在テ
ハ名高厚利聲
色滋味類我心
目ヲ攪乱シ我
口耳ヲ誘惑シ
内ニ在テハ嫉
惡愛懼悲喜欲
望ヲ掩閉シ我
心ヲ壅塞シ習
ヒ性ト成リ遂
ニ道ト相遠サ
ルニ至ル故

情ノ偏ナルハ
務メテ去リ
漸清日ヲ積
功ヲ累テ浮雲
散ジテ月光
カニ塵埃除テ
鏡面明カナル
ニ至ラバ則チ
天地萬物皆我
レト相得テ相
道豈人ニ遠
カラシヤ亦豈
ニ行ヒ難カラ
ンヤ而テ之ヲ
学ブノ要ハ宜
セザルヨリ始
ムベシ

晦處曰嗚呼世
間未ナル者ヲ
貴テ而シテ本
ノ末タル者ヲ
忽ニセザル者
果シテ幾人ア
リヤ余讀テ此
ニ至リ慨然タ
ルヲ之ヲ久シ
ク

ノ所謂至大至剛ノ浩然タル正氣。執レニ向テカ自得セガラ
ム。實ニ警察官タルモノ、心術ヲ涵養スルノ必要ナルハ。恰
モ丹青家ノ龍ヲ畫テ眼ヲ點ズルガ如シ。若シ之レナケレバ
制装嚴然タルモ。何ノ品價カ之レアラム。職掌高潔ナルモ。何
ノ威望カ之レアラム。

第二章 氣韻品操

夫有廉耻而後有風俗。有風俗而後有氣品。有氣品而後有事
功矣。故ニ廉耻地ヲ拂ヘハ風俗壞レ。風俗壞ルレバ氣品滅ス。
氣品苟モ減却スレバ。事功ノ起ル將夕何ニ據テカ之ヲ求メ
ム。嗚呼此ノ關係ノ及ブ所。實ニ至大至重ナリト謂フベシ。故
ニ在昔水戸源烈公ノ如キハ。此廉耻ヲ重ンジ氣品ヲ尊ブノ
風尚ヲ隆ナラシメ。以テ其封域ヲ旭日冲天ノ勢ニ養成セリ。

官吏タルモノハ。普通人民ノ上班ニ立チテ。生民ノ膏血ヲ
衣生民ノ膏血ヲ食ミテ。公共ノ事ヲ處シ。公共ノ務ヲ辨ズル
モノナリ。故ニ其人ト爲リニ至テハ。部下ノ衆庶居常皆ナ着
眼環視。終始仰望シテ寸時モ措カザル處ナリ。故ヲ以テ吏風
高潔ナレバ。以テ其崇尊ノ念ヲ起サシム。部下人民ヲ風動シ
テ其頽俗ヲ勵マスノ好果ヲ得ベク。若シ之ニ反シテ吏風汚
濁ナレバ。以テ其輕侮ノ意ヲ生ゼシメ。竟ニハ管下人民ノ氣
風ヲ墮スノ媒トナルニ至ルベシ。其負擔奉行セル簿書節
目ノ整否ノ如キハ。抑モ又夕末ノ末ナルモノト云フベキナ
リ。上文ノ如キハ全ク普通官吏ニ就テ論述セシモノナリ。夫
レ普通官吏ト雖モ苟モ利祿ヲ食ムデ。吏班ニ列スル以上ハ
高尚ナル氣品ヲ存シ。清絶ナル風旨ヲ保タザルベカラザル

氣韻品操

了尚ホ且ツ此ノ如シ。況ムヤ我が警察官ニ於テハ。元來風俗ノ改良ヲ以テ自任スベキモノナリ。故ニ醜風汚俗アレバ寸毫モ假借セズ之ヲ改良セザルベカラザルナリ。然ルニ警官其人氣品賤劣ニシテ。人民之ヲ蔑如シ崇尊スルノ念ナクムバ。其命ズル所其令スル所誰レカ能ク之ヲ奉ゼム。於是乎古人云ヘルアリ。欲正人必先自正ト。

論者アリテ曰ク。吏員タルモノ氣韻品節ヲ尚バザルベカラザルハ真ニ著者ノ說ノ如シ。然リト雖モ巡查ハ真ニ是レ至微至賤ノ一小吏ナリ如何ニ奮テ自己ノ氣品ヲ存養スルモ到底部民ノ尊崇ヲ得ルヲ難ク。隨テ之ヲ風化スルヲ能ハスト。夫レ然リ豈ニ夫レ然ラムヤ。すまいるす言ヘルヲアリ。人之風動一世在品操而不在地位地位雖高無品操者何得

節廉而爲他人儀表則裨其國治化不獨這當世亦及后代何也雖一人其行狀良善則自傳染於他人摸範展轉互相師法及后代廣行也。ト抑モ氣韻品格ナルモノハ寸毫モ人爵ノ如何ニ關係スルモノニアラザルナリ試ニ視ヨ首陽山頭ニ薇ヲ採ルノ西餓夫將軍門前ニ金猫ヲ投ズルノ破衲皆人爵ヲ唾棄シテ顧ミズ。其當時ニ當リテハ輶軒沈淪世ニ容レラレザリシニアラズヤ。雖然其高逸ナル氣韻ハ万古ノ下尚ホ人ヲシテ感奮欽慕ノ情ニ勝ヘガラシムルナリ。故ニ巡查ノ官職タル輕微ナリト雖モ若シ能ク身ヲ刻ミ行ヲ立テ。高尚ナル氣韻秀逸ナル品節ヲ養フニ至レバ。鏡花水月其真ヲ映ジ其妍ヲ隱ス。一能ハガルト一般誰レカ之ニ感化セ

臨處曰道義内
 二積メハ英華
 外ニ榮ス氣韻
 ヲ養フハ徳性
 ヲ練磨スルニ
 在リ本章前項

直ニ其氣品ヲ
 養フカレバカ
 ラザル所以ヲ
 辨シテ其自重
 心ヲ喚起シテ
 項ハ分テニ段
 ト爲シ前段ニ
 ハ氣品ノ以テ
 入テ感化スル
 ニ足ル如キル
 其地位ノ崇卑
 ニ開スルモノ
 ニ非ザルヲ
 論シテ以テ其
 自重心ヲ鞏固
 ニス蓋シ巡査
 ハ養給ナリ微
 職ナリトシテ
 想ハ獨リニ查
 其人ノ獨リニ
 ズ一般ノ人ニ
 テモ亦皆之ヲ
 抱ケリ而シテ
 此感想ヲ警官
 ニ在テハ既ニ
 以テ自家ノ氣
 品ヲ養フニ足
 レリ故ニ著者
 此際ニ於テ最
 モ意ヲ致セリ
 其後段ハ乃チ
 氣品養成ノ工

ガルモノアラムヤ。抑モ警察官タルモノハ他ノ凡百官吏ノ如ク。日夕局内ニ齷齪トシテ簿書刀筆ノミヲ弄スルモノニアラズ。多クハ外ニアリ人民ニ直接シテ其事務ヲ執行スルモノナルヲ以テ。平素高尚ナル氣品ヲ存養セズムバ。他人ノ信用ヲ受クルヲ能ハズ。他人ノ信用ヲ得ズムバ決シテ之ヲ心服セシムルヲ能ハズ。心服セシムルヲ能ハズムバ。何ヲ以テカ能ク其事務ヲ執行スルヲ得ム。然リ而シテ此ノ氣品ナルモノハ一朝一夕外部ヨリ摸シ來リテ得ラルベキモノニアラズ。必ズヤ多年ノ間雄心發憤シテ克省。忠誠。廉節。敬慎。寬裕。謙讓。勤儉。容儀。交際。言語。等ノ諸徳ヲ養ハザルベカラズ。其此等ノ諸徳ヲ養フニハ如何ナル手段方法ニ據ルベキヤ。必ズ聖賢ノ書ニ據リテ道義ヲ講明シ。時トナク處トナク即チ

視聽言動行住坐卧。茶裏飯裏。應事接物ノ間ト雖。凡。頃刻モ懈怠スルコトナク實踐躬行シ。自重自敬其思想行為共ニ内外隔テナク。表裏一轍。俯仰天地ニ耻ヂザルノ習慣ヲ養ヒ來ルヨリ外アルベカラザルナリ。抑モ氣品ナルモノハ内ニ高崇ナル徳業ヲ。涵養蘊蓄スル所アリテ而シテ後外ニ煥發スルモノナリ。猶ホ黄金ノ質アリテ即チ黄金ノ光色ヲ發スルガ如シ。故ニ涵養蘊蓄スル所ナクシテ強テ外面ニ高尚ナル氣韻ヲ裝フモ。尚ホ鐵質ニ金色ヲ鍍スルガ如ク一見美ナルガ如シト雖。唯其實体タル所ノ陋質ハ竟ニ蔽フベカラザルナリ。夫レ輕跳蠢愚ハ實ニ是レ懶惰ノ果實ニシテ。高潔俊邁ハ實ニ是レ徳行ノ華采ナリ。嗚呼存セヨヤ堅固ナル道義。嗚呼發セヨヤ高尚ナル氣品。

警官向台稿

氣韻品操

三三

夫共ニ是レ至
切至要ノ言護
者宜シクヲサ
ニスバカラス
又曰我邦住時
治術ハ専ラ
政教一致ヲ主
トシ為政者ハ
即チ施政者ト
リ故ニ上ハ朝
廷ノ布令ヲ規
下ハ民間ノ規
約ニ至ルマデ
此意ヲ含マサ
ルハナク降テ
近代ニ至テモ
郡村吏ノ治績
ハ考索スル者
ハ必ズ先ズ民
風淳滿如何ヲ
問ヘリ今ヤ政
教分離シハ
唯簿冊ヲ奉シ
テ周旋スルノ
ミ風俗教化
ニ各人ノ自由
ニ放任シ苟モ
法律成規ニ犯
觸セザル限リ
ハ敢テ之ヲ問
フ所ナシ然レ

第三章 剛膽毅骨

夫レ警察官ハ人民メ爲ノニハ。其信任依頼スル所ノ武勇強
毅ナル保護者ナリ。國家ノ秩序安寧ヲ維持シ。禍害ヲ未萌ニ
止メ。犯罪ヲ未發ニ防ギ。其制度法律ヲ破リタルモノヲ搜索
シ。公衆衛生ノ看護ヲナシ。一般風俗ノ壞敗ヲ制シ。道路ノ安
泰。旅行ノ平穩ヲ圖リ。火災水害盜難ヲ警メ。殖産工業及商業
上百般ノ妨害ヲ除キ。人民ヲシテ生命財産ノ鞏固ヲ得。高枕
安卧ノ幸福ヲ得セシムルハ。實ニ是レ其ノ任ナリ實ニ是レ
其職ナリ。警察ノ燈。警察ノ棹。一國ノ靜否之レニ據テ決ス。億
萬ノ安否之ニ係リテ存ス。之ヲ照シ之ヲ導イテ其宜シキヲ
失ハザラシムル。警察官ノ任亦夕重シト云フベシ矣。
曾參曰士不可_レ以_レ不_レ剛毅_ト。任重而道遠_ト。余モ亦夕此語ヲ以

テ我カ警察官ニ轉用セントス。如何ムトサレバベクカ
警察モ曰ヘルアリ。警察似_レ油_一。一滴能用_レ之_得。其宜_則使_政
府機關益_{圓滑}矣。ト故ニ國家機關ノ運行幫助スルモノハ警
察官ニシテ。又夕之ヲ停止スルモ警察官ナリ。之ヲ破壊スル
モ警察官ナリ。實ニ國家ヲ泰山ノ安ニ置キ。民衆ヲシテ高枕
安卧セシムルハ。警察官其人ノ任ナルヲ以テ。國家ノ秩序亂
レテ。民衆畏懼ノ心ヲ去ル能ハザル丁アレバ。其ノ罪警察官
ニ歸セザルヲ得ズ。故ニ警察官タルモノハ強賊ノ良民ヲ害
シ。亂民暴徒ノ平穩ヲ妨ゲ。或ハ疫癘勢ヲ逞クシ。水火ノ災制
シ難キ。等ニ當リテハ義勇精誠。命ヲ棄テ軀ヲ忘レ。真ニ熱血
ヲ瀝ギ肝腸ヲ抉ルノ覺悟ヲ以テ之ニ當ラザルベカラズ。警
察手眼ニ曰。一旦奉職以上。須_以斃_其職分_而後_已爲_{目的}。當_レ

警察官之

剛膽毅骨

廿四

於後ニ戒メ所
 車子ヲ推シガ
 如ク戦力一致
 シテ事ニ従ヒ
 其他ノ吏員教
 導職及地方
 志士亦皆此
 心ヲ以テ之ヲ
 輔導セバ頗風
 回スベク而シ
 保ツベク而シ
 テ國家ノ富強
 モ亦企圖シ難
 カラズト今此
 書成レリ警官
 タル者能ク服
 膺シテ懲ラズ
 シハ其ノ成績
 ノ顯者ナル日
 ヲ指シテ待ツ
 ニ至テ其既行
 汚聞未タ跡ヲ
 各地ニ絶タズ
 志士教職亦
 果シテ能ク斯
 心ヲ存スルヤ
 否ヤ故ニ余ハ
 此書ヲ以テ獨
 リ警官ニ止メ
 ス各人ノ坐右
 ニ必ズ一卷ヲ

於事變動於心或逃干其名之潔。只是不免爲胎妨害之賊。ト是
 等ノ事情ハ獨リ事變ニ際スル片ノミナラズ。警察官タルモ
 ノハ日夜ニ多衆人民ニ直接シテ職務ヲ執行スルヲ以テ。說
 諭シ命令シ禁止シ戒告シ誘導シ保護スルニ當テハ。人心ノ
 同ジカラザル各其面ノ如ク。之レニ從フモノアルベク之ニ
 背クモノアルベク。之レニ悦服スルモノアラム將夕之レニ
 抵抗スル者モアラム。又ク罵詈嘲笑スルモノアラム。如此場
 合ニ處シテ過嚴ニ失セズ優柔ニ陷ラズ。能ク節ニ中ルノ措
 置ヲナサムト欲セバ平素百折不撓不屈ノ剛膽毅骨ヲ
 具セズムバ。到底其職ヲ全フスルヲ能ハザルナリ。
 警察官タルモノハ剛膽毅骨ヲ具セザルベカラザル。如此
 夫レ然リ。而メ此ノ剛膽毅骨ナルモノハ野猪介者ノ謂ヒニ
 アラザルナリ。暴虎馮河ノ謂ヒニアラザルナリ。客氣ヲ以テ
 勝ツモノ、謂ヒニアラザルナリ。實ニ剛毅ハ是レ正理公道
 ト正ニ相合スルモノナリ。一分ノ私心一毫ノ慾情之ニ混ズ
 ルアレバ最早剛ニアラザルナリ已ニ毅ニアラザルナリ。如
 此ハ即チ是レ孔丘ノ所謂。振也慾者也。世人或ヒハ悖戾ニシ
 テ沈着動カザルモノヲ指シテ。剛膽毅骨ヲ有セリトナスモ
 ノアリ。誤レルノ甚シキモノト云フベシ。何ムトナレバ近ク
 之ヲ譬フレハ。大盜石川五右衛門ノ如キ他人ノ財産ヲ遇ス
 ル丁土芥ノ如ク。他人ノ生命ヲ視ル丁草木ノ如ク。其豪膽不
 敵ノ胸臆タル一見豪膽毅骨アルガ如クナルモ。決シテ真ノ
 剛ニアラザルナリ。真ノ毅ニアラザルナリ。其心術ノ微弱ナ
 ル。實ニ憐ムニ堪ヘタルモノアルベシ。即チ此ニ千金ノ家

警察官ノ同僚

剛膽毅骨

廿五

アリ。五右衛門將ニ之ニ闖入セントスルニ臨ミ。我レ汝ニ二千金ヲ與ヘム。汝其盜ヲ止ムルヤ否ヤト云ハ。五右衛門ハ喜ムデ其盜心ヲ去ルベシ。是レ彼レノ目的トスル所ハ只金ナリ。其他ヲ問ハザルモノナレバナリ。然ルニ此ニ捕正成ヲ捕ヘテ。汝其節ヲ變ズベシ果シテ然ラバ我汝ニ與フルニ万金ヲ以テスベシ。汝其操ヲ亂ルベシ。然ラザレバ我レ汝ガ生命ヲ奪ハムト言フト雖也。公何ゾ其心ヲ動サムヤ。即チ其剛毅ナルト否トハ。全ク其私意ヲ去ルト否トニアルナリ。嗚呼三軍ノ帥ハ奪フベシ。匹夫ノ志ハ奪ベカラズ人若シ道義ヲ守リ。屹然死生禍福ノ外ニ立ツニ至レバ。何レノ境ニ處シテカ剛ナラザラム。何レノ時ニ臨ムデカ毅ナラザラム。孟軻ノ所謂自反縮雖千萬人吾往矣。ト云ヘルモ亦夕此ノ義ニ外ナラザルナリ。彼ノ私意慾情苟モ發動スル所アレバ。假令ヒ事業ハ一時成功ヲ告グルモ。亦夕立コロニ退廢セム而已。故ニ大塩後素曰。英傑當事固忘禍福生死而事適成。則亦或惑禍福生死矣。至學問精熟君子則一也。ト

余嘗テ先賢ノ事歴ヲ閱シシ。勇氣ノ發動ニ就キ大ニ開悟シタルコアリ。請フ試ミニ之ヲ説カム。即チ讀者モ已ニ知レル如ク伊藤仁齊ハ夙ニ宋説ヲ奉シ。年三十七八ニ及ムデハ已ニ已ガ見ヲ立テタル程ノ人傑ニテ。實ニ一代ノ儒宗ニシテ所謂文壇場裏ニ超然獨立シタルモノナリ。扱テ此ノ宗説ニテハ傑出シタル一流ノ人物タル。伊藤仁齊ニ就キ先哲叢談ニ載セテ云フ。

仁齊嘗夜行郊外。劫賊四五人當路立。各按劔曰。吾徒不醉

劫賊仁齊
ニシテ悔改

不樂。今無酒資。客若欠腰纏。則自脫衣裳。供之。仁齊神色不
少動。曰。今日適無囊錢。敝温袍。脫以遺之耳。且問汝輩常以
何爲業。邪。曰。昏夜橫行。掠奪。以自給。是其業也。仁齊曰。以若
所爲爲業。吾何拒焉。輒脫服。以授之。將去。於是賊止。仁齊曰。
吾儕草竊爲衣食。數年。未嘗見舉止如客者。抑客何爲者。曰。
儒者也。曰。儒者爲何事。曰。以人道教人者也。所謂人道者。孝
於親。弟於弟。不可一日無者是也。人而無道。禽獸焉耳。言未
畢。賊皆頓首涕泣。曰。噫。君與吾均是人也。而事業之迥異如
是。吾甚耻。願君宥吾儕罪。今而後。飲灰洗胃。謹奉教。干門下。
遂皆改心自勵云。

又夕中江藤樹ハ篤ク王門良知ノ學ヲ信ジ。行ヲ先ニシテ言
ヲ後ニシ。德行ヲ以テ鄉黨ヲ薰化シ。夙ニ近江聖人ノ稱ヲ受
ケシ人ニシテ。先哲叢談ニ載スル所如左。

中江藤樹

藤樹嘗夜自郊外歸。有賊數人。突然從林中出。遮路曰。客解囊。以
供我飲酒。藤樹乃熟視。舉錢貳百。授之。賊拔刀叱曰。所以求
客者。豈止是而已哉。速卸衣裳及佩刀。否則不須多言。藤樹
神色不變。曰。姑緩之。吾慮其授與不孰。是乃瞑目。又手少頃。
曰。吾慮之。假戰而不利。無輕卸。以與汝之理。即撫
刃起。且曰。戰者必先以姓名告。我近江人中江與右衛
門也。於是賊大驚。投刀羅拜。曰。敬鄉雖三尺童子。莫不
知藤樹先生爲聖人者。吾黨雖攘攫爲活。豈得施之聖
人哉。願先生矜其不知。而宥之。藤樹曰。人誰無過。過而
能改。善孰大焉。乃說之以知行合一之理。則賊咸感泣。遂率
其黨爲良民。

疑心暗鬼

臨處曰凡ソ人
望ノ存スル所
ニ向テ現ハル
者ハ貴クニ向
官任ニ急ナル
者ハ貴クニ向
テ弱ク財賄ミ
急ナル者ハ富
人ニ向テ弱ク
附テ者ハ權門
ニ向テ弱キガ
如クニ由ル
アルニ由ル
ハ能ク鉄石ノ
心腸ヲシテ韋
ノ如ク綿ヲ韋
クナラシム張
七ナ剛ヲ得ザ
ルモ其慾アル
ニ由レルト深
ク考フベシ故
ニ人若シ其剛

讀者ハ此二章ノ文ヲ讀ムデハ、果シテ如何ナル感ヲ爲スニ
伊藤中江兩氏ハ共ニ一世ノ大儒大ケアリテ變ニ臨ムヲ神
色少シモ動カザルノ一段ハ深ク感服セザルヲ得ザルナリ
殊ニ藤樹ノ瞑目又手其授クルノ理否ヲ熟慮シ心ニ決シテ
而シテ後チ勃興セシニ至リテハ、流石ハ實學者ノ行爲、更ニ
一層敬服ノ情ヲ増サ、ルヲ得ザルナリ。抑モ時人ハ伊藤仁
齊ヲ目シテ、泰山ノ巖々トシテ親ムベク、動カスベカラサル
ガ如シト云ヘルニアラズヤ中江藤樹ハ實ニ敦厚篤實只ダ
德行ヲ是レ重ムジタル。温良恭謙ノ君子人ニアラズヤ。而シ
テ兩者同ジキ境遇ニ處シ、均シキ場合ニ遭逢シ、其方寸ノ動
カザルハ一致ナルモ剛者ハ柔ニ柔者ハ剛ナルノ狀ヲ顯シ
タルハ是レ何ノ原因ゾヤ是レ何ノ理由ゾヤ。余思フニ是レ
全ク心術涵養ノ如何ニ據テ、其結果異ナルナリ。即チ藤樹ノ
奉ゼシハ、俗ニモ心學派ト云ヘル如ク、陸王ノ學ニテ心術存
養ニ專ニシテ、仁齋ハ宋儒派ニシテ格物ニ偏ナリシ弊ナリ。
於是乎知ヌベシ。剛膽毅骨モ余ガ已ニ本篇第一章ニ於テ述
ベタル如ク、全ク心術ノ涵養ニ據リテ發生シ来ルモノタル
トヲ。若シ心術ノ素養乏シケレバ、事變ニ當リ心緒狼狽ヲ極
ム。所謂心不在焉、視而不見、聽而不聞、食不知其味者也。彼ノ源
平ノ戰爭ニ當リ、平氏ハ富士河ニ於テハ、水禽ノ起ツヲ聞テ
敵ノ來襲ト驚キ、屋島ニ於テハ漁火ヲ見テ源軍ト誤認シ、恐
怖セシニアラズヤ。又彼ノ明智光秀ヲ見ズヤ。大事ヲ擧ゲン
ト決シツ、アル際ニ當リテ、或人粽ヲ供セシニ、其包ヲ脱セ
ズシテ之ヲ食セシニアラズヤ。若シ此ニ至レバ所謂風聲鶴

剛膽毅骨

廿八

勝ヲ養ハント
 先ガ務メテ其
 可カラシメテ
 非淡泊無以養
 其志及ビ養志
 莫善於寡慾ト
 云ヘルモノ是
 ナリ然レバ亦
 惜ナクハ慾ヲ
 死灰ノ如ク枯
 寒巖ノ如ク枯
 木ノ如クナル
 片ハ却テ道念
 ノ發動ヲ妨ゲ
 亦大ニ不可ナ
 リ只平生志
 氣ヲ高尚ニシ
 帝ニ正理公道
 ニ向ハシムル
 ヲ要ス如是ナ
 ルハ則チ奇
 道ヲ行ヒ一
 道ヲ行ヒ心ヲ
 動スニ足ラス
 所謂其身ヲ殺
 スベクシテ其
 志ハ辱カシム
 ベカラス剛膽
 又曰ク讀者或
 ハ謂ハン伊藤
 仁齋中江藤樹
 ハ皆一代ノ儒
 宗希世ノ人傑
 ナリ之ヲ以テ
 尋常人ニ望ム
 ハ猶鳥獲ノ如
 フ焦徳ニ強ニ
 ルガ如シト鳴
 呼是亦自業ノ
 甚シキ者ナリ
 昔者藤樹大學
 人一是皆以修
 身爲本也一
 節ヲ讀ミ達ニ
 發憤培入シテ
 近江聖人ト稱
 セラル、ニ至
 レリ天ノ物ヲ
 生ズル古今内
 外ノ別アルニ
 非ズ人能ク一
 且立心奮勵セ
 バ皆以堯舜タ
 ルハシ何ガ仁
 齊藤樹ノ地位
 ニ至ラザルヲ
 患ヘン剛膽
 骨モ字アリシ

喚。皆ナ是レ我が敵ナラザルハナキニ至ルナリ抑モ氣ヲ養
 ヒ。心ヲ存スルノ一ハ。宜ク沈潜体察シテ之ヲ自得スベシ。瓜
 ノ苦キハ口以テ其真ヲ言フベカラズ。筆以テ真ヲ寫スベカ
 ラズ。只自ラ之ヲ嘗ソ之ヲ嚼ミテ其苦キヲ知ルベキノミ。
 余傭思フニ。氣ヲ養フハ實歴ニ若クハナシ。夫レ俗學者ハ腹
 ニ萬卷ノ書ヲ藏メ。口ニハ見義不爲無勇也ト。朝夕喃喃々弟子
 ニ講授スト雖氏。實際勇骨ヲ保チ毅膽ニ富メルモノ甚ク之
 シ却テ彼ノ俠客者流ノ如キハ。眼ニ一丁字ナシト雖氏。能ク
 難ニ當リ其強殺ナルヲ。動モスレハ迥カニ學者ノ及バザル
 處アリ。余曾テ某儒ノ記事ヲ讀ミタルヲアリ。關東某地ニ有
 名ナル俠客二人アリ。故アリ爭端ヲ開キ。兩黨日ヲ刺シテ某
 ノ原野ニ於テ。堂々陣ヲ張リ決闘ヲナシタリ。其日乙黨敗績

皆ナ斃ル。乙黨ニ一少年アリ。我が主領ノ斃ル、ノ見テ。忽チ
 敵魁ヲ目ガケ叱咤刀ヲ揮ヒテ挺進ス。敵兵群リ集リ迎ヘ戰
 フテ其右腕ヲ斷ツ。即チ左手ヲ拳シテ進ミ。之ヲ打タント欲
 ス。敵兵又夕其左手ヲ切ル。少年兩手ヲ失フモ尚不屈セズ。敵
 魁ヲ嚙マント欲シ。怒髮瞋眼口ヲ開キ齒ヲ顯ハシ益奮ヒ進
 ム。於是乎敵魁部下ヲ制シテ曰ク。噫如此真個ノ好男子我黨
 ニ之レナキヲ惜ムト。自ラ躍テ出デ腕ヲ顯ハシテ之ヲ嚙シ
 ム。少年痛ク嚙ミ去リ。其肉ヲ含メテ直ニ斃レタリト。嗚呼如
 此ノ勇氣ハ學窓ノ下ニ於テ。容易ニ養ヒ得ラルベキモノニ
 アラズ。是レ皆多年境遇上ヨリシテ實歴シ。自然ニ研磨存養
 シ来リタルキノナルヲ知ル。讀者宜シク鑑ムベキナリ。

第四章

温厚和平

温厚和平

廿九

テ能クスベシ
ボメテ而シテ
得ラルベシ

本邦ニハ古来完全ナル警察ナルモノナク。昔時檢非使及ビ
總追捕使ノ官アリト雖也。當時政理未ダ密ナラズ。只其世ニ
適シ宜シキヲ取リタル制度ニシテ。單ニ司法警察ノ了有テ行
政警察ノ了ナシ。爾来武門權ヲ專ニシ。施政ノ了細大トナク
皆ナ武斷ニ是レ據リ。徳川氏ノ治世ニ及ビ目付役ナルモノ
アリ。警察ノ事ヲ掌理スト雖也。是レ又夕司法警察ニ專一ニ
シテ。行政警察ハ僅カニ其最少部分ノ也。故ニ各州藩廳ノ制
度ニ據リテ各差異アリ。要スルニ目付役ナルモノハ。警察權
アリ。司法裁判權アリ。且ツ之ニ加フルニ。時トシテハ查察及
ビ治罪判決ノ諸法ヲ執行スルニ正理公道ニ背ク了アルノ
ミナラズ。一旦此阨ヲ逢フノ下民ハ。真ノ泣キ寢入ニテ更ニ
之ヲ上司ニ告グルノ道ナケレバ。空シク冤枉ニ咽ムデ之ニ

屈服セザルヲ得ズ。故ニ目付役ハ實ニ非常ノ威嚴ヲ有セル
モノニシテ。又夕目付役ナルモノ躬自ラ持スル了。頗ル嚴正
威重ニシテ。一旦事ヲ處スルニ臨ミ。只ダ威ノ嚴ナラザラム
了。是レ恐レ。只ダ勢ノ重カラザラム了。是レ慮ル。故ニ宴
會ニ臨ミテモ其闌ナラザルニ退キ。衆ト和樂ヲ諧ニセス平
素努メテ温容和色ヲ形サ、ルノ習ヒナリシ。大政維新百度
擴張ノ際。警察ノ制モ亦夕泰西ノ法度ヲ斟酌シテ。短ヲ捨テ
長ヲ採リ大ニ昔日ノ面目ヲ一洗シタリト雖也。古来ヨリ司
法警察ヲ專トセシ沿革ヨリシテ現時ニ至ル迄。今日我國ニ
テ普通ニ警察ト云ヘバ皆ナ如何ナル感情ヲ催スカ。多クハ
「こわき」モノ。とごそか」ナルモノナリトナシ。了たわしき」モノ。
了たのもしき」モノナリ。了ノ感情ヲ生ズル了頗ル薄弱ナリ。余

支那の警察

警察の歴史

三十一

嘗テ聞ク泰西ノ俚諺ニ。溫和^{温和}兵卒也。懇切^{懇切}是巡查也。ト云フ
コアリト。斯クアリテコソ真ニ兵卒タリ。巡查タルノ本来面
目ト云フベケレ徒ラニ威ヲ持シ嚴ヲ示スハ。何ノ事タルヲ知
ラザルナリ。夫レ一般ノ風俗既ニ警察官ヲ忌憚畏怖スルト
實狀アルキハ。部民タルモノ輕微ノ事ハ可成之レニ告知若
クハ尋問スルコトヲ避ケ。非常異變ノ件等止ムヲ得ザルノ事
アルニアラザレバ容易ニ保護ヲ請ハザルニ至ルベシ。是レ
實ニ勢ノ免レザル所ナリ。泰西諸國ニ於テハ多少本邦ト習
慣制度ノ異ナリタル處アリトハ云ヘ。嘗テ余之ヲ教師ヘト
セ氏ニ聞ク。伯林府下各警察署ニ於テハ。其部内人民ノ生業
其他百般ノ事端ニ付。甲モ警察乙モ警察下苟モ部民ノ頭上
ニ不審不明ノ件アルキハ。悉ク警察署ニ尋出ル習慣ナリト

云フ。故ニ署務モ皆ナ諸事之ニ應ズルノ方法仕掛ヲナセリ
ト。然ルニ余先年京地滯學中。府下某警察署ニ於テ宇漏生國
ノ制ニ倣ヒ。部民ノ人名札ナルモノヲ調製セルヲ一見シタ
リ。然ルニ其擔當者ノ言フ所ニ據レバ之ヲ設クルモ署内執
務ノ便ニ供スルノミニシテ。別段人民ヨリ部民ニ係リ尋出
ル等ノコトハ。真ニ寥々トシテ履星ノ如シト。故ニ羞^羞膳^膳已ニ整
テモ賓客尚ホ來ラザルノ不興ナル風情ヲ存セルヲ感ジタ
リ。夫レ民度ノ發達開展セル帝都ニ於テスラ尚ホ且ツ然リ。
況ムヤ各地方ノ山村僻邑ニ於テハ警察ヲ視ルコト一層嚴且
ツ重ナラザルヲ得ズ。已ニ此ノ弊アル以上ハ警察官タルモ
ノ如何ニ職務ヲ精勵シ。如何ニ人民ヲ保護スルノ情切ナリ
ト雖氏。到底其精神ヲ貫クコト能ハザルナリ。然リ而メ此ノ厭

フベキ習俗ヲ去ルニハ如何ナル方法ニ據ルベキカ。抑モ如
此ノ習俗ヲナシタルモ。是レ畢竟往時目付役ノ只管嚴毅威
重ヲ是レ事トシタル結果ナリ。故ニ之ヲ去ルニハ先ヅ反對
ノ緩和劑ヲ用ザルベカラズ。其所謂緩和劑者何ゾヤ。即チ
温容和色是ナリ。寛心優情是ナリ。事情ノ許ス限リハ温容和
色ヲ以テ人ニ接シ。事情ノ許ス限リハ寛心優情ヲ以テ事ヲ
處スレバ。誰レカ之ニ感動セザルモノアラム。誰レカ之ヲ親
愛セザルモノアラムヤ。

夫レ外カ怯ニシテ内勇ナルハ是レ真ノ勇ナリ。外寛ニシテ
内明カナルハ是レ真ノ明ナリ。其意氣ハ三軍ヲ吞ミ。其壯貌
ハ張飛ヲ走ラシ。其膂力ハ能ク千斤ノ鐵棍ヲ揮ヒ。方鈞ノ弩
ヲ引クベキ驍勇モ。一片ノ情ケアリテコソ真ノ武士ナレ。鐵

額金眸其怒ルヤ。毛色焰ヲ生ジ。哮聲地雷ノ如ク。霜牙ハ以テ
岩角ヲ摧クベシ。銳爪ハ以テ猛虎ヲ攫ムベキ。獅子モ。紅雲麗
艶鴨綠ヲ漂ハスノ牡丹園裏ニ。花ヲ穿チテ翾々香ヲ尋ヌル
ノ蝴蝶ト。優遊スルノ閑情悠思アリテコソ。真ノ獸中ノ王ト
云フベキナレ。嗚呼警察官モ亦タ然リ。剛毅勇技流俗ヲ凌グ
モ。温厚ノ心和平ノ情アリテコソ。是レ真個ノ警察官ナレ。抑
モ警察官タルモノ、本来面目ニ於テ。獨リ温厚和平ノ氣象
ニ富マザルベカラザルノミナラズ。目下我國ニ於テハ上文
ニ於テ已ニ叙述セシガ如ク。警察官ヲ忌憚スルノ習俗結ホ
レテ已ニ一堅塊トナレリ故ニ先ヅ第一着ニ靄々タル温光
和風ヲ以テ。之ヲ煙散霧消ニ歸セシメ。以テ真ニ警官ヲ親愛
敬慕スルノ情念ヲ起サシムルノ必要一層切ナリト謂フベ

暗處曰犬ノ性
 フルモハ先
 アルヲ以テ人ヲ
 威嚇スル者君
 子ヨリ之ヲ視
 レバ只憫笑ノ
 外ナシト雖ハ
 細民ニ至ラズ
 ハ則ト然ラズ
 嚴ナレバ則チ
 畏テ而シテ近
 ヅカズ寛ナレ
 バ則チ狎テ
 而シテ之ヲ易
 トル寛嚴ノ際
 宜シク斟酌
 ルベシク斟酌
 又曰莊嚴ナル
 官署ニ居リ威
 容アレテ臨
 着ケテ陸離
 長劔ヲ佩シ
 二簿ヲ持シ
 テ而シテ誰
 テ細民ノ畏
 テ而シテ近
 カザル亦宜
 ナラズヤ是際
 於テ他ヲシテ
 親愛敬慕ノ念

シ。雖然温ニ失シ和ニ過タルハ亦夕一弊ナリ。佐藤一齊曰治
 而不瀟。蹈而不陷。是此中行ノ君子。ト警察官ノ執ルベキ温和
 ハ宜シク此度ヲ執ルベキナリ。

第五章 思想緻密

あるさるへるふ曰。欲如人教育。則須使先主。緻密其思想
 思想苟緻密。即餘不必問其他教育方法何如也。ト實ニ吾人
 ニ緻密ナル資性ノ必用ナル一ハ氏ノ言ノ如ク。學術ノ進修
 ハ固ヨリ言ヲ待タズ。世間百般ノ一瑣事一細務ト雖ハ。翼々
 ノ小心ヲ存スルニアラザレバ到底整頓スル一能ハザルナ
 リ。然ルニ世人動モスレバ古来ノ套語ヲ引キ来リテ。英雄不
 顧細行。人傑不問小事。ト豪放ヲ装フテ細密ヲ事トセザルモ
 ノアリ。惑ヘルノ甚シキモノト云フベシ。何トナレバ此ニ全

ク右ニ反對セル格言アリ。即チ膽欲大。心欲小。ト又夕曰
 久驚天動地大事業。悉皆從小翼翼。中來ト此後ナル二者コ
 ノ真ニ是レ千古不磨ノ格言ト云フベシ。凡ソ一ノ格言ハ。唯
 幾分ノ真理ヲ含有スルニ過ギザレバ。彼是參酌比較シテ而
 後能ク之レガ取捨ヲナスベシ。然ラザレバ非常ノ誤解ニ陷
 リ。徒ニ其身ヲ謬ルノ具タルニ過ガルベシ。

凡ノ警察官ナルモノハ。續紛タル人事ノ千變万化シテ。競争
 セル中ニ立テ。其力ヲ盡シ功ヲ收ムルヲ以テ目的トスルモ
 ノナレバ。之レガ任ニ當ルモノハ。事ニ臨ミ物ニ當リ。尤モ綿
 密ヲ主トセザルベカラズ。若シ粗慢放縱調査精シカラズ。注
 意密ナラザル等ノ了アルハ。粉骨碎身何程之レニ勉強ス
 ト雖ハ。徒勞ニ屬スルノミナラズ。爲メニ左支右吾。種々ノ錯

雜紛紜ヲ是レ生ジ。事務ハ却テ停滯紊亂ヲ惹起スルニ至ル
 ベシ。殊ニ統計ニ屬スル事務ニ至リテハ。一層ノ細心密慮ヲ
 必要トス。如何トナレバ已死ノ物ハ方生ノ用ト爲リ。既往ノ
 事ハ将来ノ鑑トナルナリ。彼ノ既往ヲ詳カニシテ将来ヲ慮リ。
 以テ事物ノ利弊消長ヲ考察シ。前途ノ畫策ヲナサムト欲セ
 バ。必ズヤ統計ニ據ラザルベカラズ。故ニ統計ノ事務ヲ執ル
 ニ當リテ探究ヲ努メズ。輕忽ニ事ノ判斷ヲ下シ。或ハ様式ノ
 誤解ヲナシ。或ハ憚ル處アリテ掩匿ノ念ヲ蓄ヘ。或ハ杜撰ニ
 シテ員數ニ差誤ヲ生ジ。爲ニ事物ノ真相ヲ表明セザル等ノ
 丁アル所ハ。實ニ恐ルベキノ弊害ヲ醸生スベキナリ。佛人も
 一曰。虚妄統計ノ誤ニ國家甚於大姦巨賊。姦賊行爲人知其
 非。虚妄統計人辨。其是非難。ト夫レ百般ノ事物ニ就キ。利

弊消長ノ基ク所ヲ審カニシ。之レガ經綸ヲ爲サムト欲セバ。
 必ズヤ統計ニ據ラザル能ハザルナリ。抑モ史傳ハ進動スル
 處ノ統計ニシテ。統計ハ靜止スル處ノ史傳ナリト云ヘルガ
 如ク。其靜止スル處ノ史傳タル統計ハ。即チ諸般事物ノ寫真
 ナリト云ベシ。凡ソ事ヲ經綸スルモノハ。其寫真ヲ目的トシ
 テ考按ヲ下スモノナレバ。實ニ施治者ノ統計ニ於ケルハ。恰
 モ行旅者ノ指導標ニ於ケルガ如シ。若シ此ニ誤謬アラムカ。
 毫厘ノ差忽チ千里ノ違ヲ生ジ。精勵治ヲ謀レハ謀ル程愈々
 禍害ヲ醸シ。竟ニ救フベカラザルノ境ニ陥ラムトス。又夕彼
 ノ警邏ノ如キニ當リテモ。只徒ニ健步勇足度數ヲ重ヌルモ。
 其查察精密ナラザル所ハ何ノ功力之レアラム。夫レ然リ而
 メ思想ノ緻密ナラム丁ヲ望ムモ。一朝ニシテ得ラルベキモ

晦處曰所謂不
 願細行不問小
 事ト云フモノ
 由リ或ハ然ラ
 りアリ然レ氏
 長レ實ニ非常
 ノ場合ニ於テ
 偶々然ルノミ
 常時ニ於テハ
 則チ大ニ然ラ
 ザレハ終ニ大
 徳ヲ累ハシ小
 事ヲ忽諾ニス

思想緻密

三十四

業ヲ成スル能ハス余古余英
大業ヲ成シテ
功ヲ立ル所以
ヲ察スルニ悉
ク小心細志ノ
中ヨリ爲シ出
シテ昔宋ノ韓
琦曹ヲ其地ノ
推官トシ盛夏
二官ヲ流シテ
事ヲ執ルルハ
行見テ而シテ
大ニ之ヲ器重
ニテ口此人
頭蒙目前ニ在
リナガラ事ヲ
勤ハルル如此
其規模ノ大ナ
ルヲ知ルベシ
ト遠ニ宋時第
一ノ名臣トリ
又我朝ノ豐太
閔ハ大綱ノ英
智ナリ而モ其
微賤ナルニ當
テハ執節司新
ノ賤位ト雖モ
敢テ怠ラス遂
ニ能ク織田公

公ノ信仕ヲ得
テ天下ヲ帝眷
セラレシリ然
レ氏其曾テ松
下氏ノ全ヲト
テ走リ蜂須賀
小六ニ從テ盜
ヲ行ヒタルガ
如キハ余ガ所
謂非常ノ時非
常ノ場合ニ於
テ出テタル者
ニ出テタル者
ノミハ徒物
ノ道理ヲモ解
セニ安リニロ
ソ英雄豪傑ノ
士ニ籍リ以テ
其放縱ナニシ
跡ヲ掩ハント
欲ス是レ其一
事成ルナキ
ニ終ル所以ナ
リ此章引ク所
ノ一二格言ハ
唯其概要ヲ示
スノミ讀者宜
シク三隅ヲ反
スベシ

ノニアラズ。必ズヤ事々物々注意ヲ密ニシ。數年ノ勞ヲ積ミ
幾多ノ精ヲ盡シ。其性ヲ養ハザルベカラザルナリ。夫レ家屋
ヲ壓スルノ積雪ハ一片ノ飛絮ヨリ始マリ。堤防ヲ崩スノ洪
流ハ一掬ノ水ヨリ起ル。一念一行積ミテ習慣ヲ作シ。一習一
慣重リテ第二ノ天性トナル。居常深ク注意セザルベカラザ
ルナリ。古語ニ曰。惜寸陰者乃有凌轢。千古之志。憐微者乃
有馳驅豪傑之心。ト嗚呼細微ニ留念スルノ効果亦タ大ニ哉。

第六章 勇決斷行

陸象山王陽明等。夙ニ知行合一ヲ唱道シ。專ラ實踐躬行ヲ淬
勵セシガ如ク。凡ソ人ハ事ヲ理シ身ヲ處スルニ當ル。理否ヲ
識別シ得ザルニアラズ。之ヲ果決シ得ザルヲ憂フ。之ヲ果決
シ得ザルニ非ラズ。之ヲ斷行シ得ザルヲ憂フ。夫レ知リテ。而
メ決セザルハ是レ真ニ知リ得タルニアラザルナリ。決シテ
而メ行ハザルハ是レ真ニ決シ得タルニアラサルナリ。故ニ
陽明曰。知者行之始也。行者知之成也ト

古來學者ノ調査セル處ニ據レバ。果斷力ナルモノ、強弱ハ。
人其人ノ體質ノ如何ニ存ス。即チ果斷力ニ富メルモノハ。多
クハ強健ナルモノニ屬セリ。其強健トハ只ク骨格肥瘦ノ謂
ニアラズ。精神意氣ノ邁往剛烈ナルモノヲ云フ。然レ氏活潑
精神、存健康体。ト云ヘルノ格言モアレバ歸スル所。体格ノ壯
剛ナルモノ先天此ノ力ニ富メリト言ハザルヲ得ザルナリ。
曰ク然リ然リト雖氏。微弱ノ身體モ營養宜シキヲ得レバ勇
健ト爲リ。勇健ノ身體モ攝生其道ヲ失ヘバ微弱ト爲ルガ如
ク。果斷力ニモ亦タ自家ノ存養如何ニ據テ消長伸縮アルハ

本宮宮司若希

勇決斷行

三十五

知ルベキナリ。然ラバ則チ之ヲ養フノ道如何曰ク。人々皆ナ
多ク、此ノ資性ノ萌芽ヲ有セサルモノナシ。故ニ日常紛出
雜生スル所ノ百般ノ業務ハ勿論。殊ニ意外ノ變故ニ際シ毎
ニ心ヲ此ニ存シテ親檢實歷シ。練リ来リ磨シ去リ百練千磨
漸ク其功ヲ重ヌルキハ、次第ニ執意ノカヲ確クシテ遂ニ先
天ノ果斷カト容易ニ判別シ得ベカラサル一種ノ能力ヲ發
生シ来ルベシ。抑モ果斷カナルモノ、用ハ發火器ニ裝置セ
ル導火線ノ如シ。若シ導火線ニシテ火氣ヲ引クナクムバ、
其勢ハ天心ヲ動カシ坤軸ヲ挫クニ足ルベキ猛烈ノ地雷火
ト雖氏之ヲ爆發スルニ由シナカルベシ。故ニ如何ナル高誠
奇才ヲ懷抱スルモ一片ノ果斷之レガ動機ヲ與ヘ。確實ナル
決心之レガ進取ヲ促スニアラザレバ。竟ニ發動シテ其能力

ヲ顯ハス丁能ハザルベキナリ。余嘗テ之ヲ乃木將軍ニ聞ク。
寺瀧生國軍兵ノ強盛ヲ極ムル所以ノモノハ。軍休其モノ、
強キハ勿論ナルベシト雖氏。其主タル大原因ハ外交上ニ臨
ミビずまゝノ決意果斷ニシテ。出帥準備ノ敏速ナルヲ以
テ毎ニ先鞭ヲ着ケテ他ヲ制スルニアリト。今日警察上外人
交渉ノ事件ニ於テモ殊ニ然リトス。其事件タル假令ヒ我ニ
十分ノ正理アリト雖氏。其談判ニ當リ彼ニ先ムゼラ、片ハ、
容易ニ我が權利ヲ伸暢スル丁能ハズ。故ニ余ノ聞ク所ニ據
レバ神戸警察署ノ如キハ。若シ外國水兵ト鬪爭等ノ起ルキ
ハ。之レガ署長タルモノハ万事勇斷決行シ。其敵手ノ未タ歸
艦セザルニ先ダテ。水上警察ヨリハ已ニ小蒸氣船ヲ飛バシ
テ其軍艦ニ至リ。堂々船將ニ向テ我ヨリ先ツ談判ヲ試ムル

ヲ以テ。同地ニテハ是等ノ爲メ未ダ嘗テ敗ヲ取リテ。事重大トナリテ知事ヤ警部長ヲ煩ハスニ至リシトナシト。先者制以。後者制於人トハ真ニ千歳不磨ノ名言ト云フベシ。凡ソ吾人生平斯身ヲ處シ。日常瑣務ヲ理スルモ亦タ此ノ如シ。活潑明快ノ胸次ニ乏シク。優柔不断其日ヲ送ルルハ。獨リ精神意氣ノ奮興セザルノミナラズ。執ル所ノ事ハ進捗セズ。爲ス所ノ件ハ勝フ他ニ占ノラレ。進ムモ利ナク退クモ益ナク。竟ニ前後據ル所ヲ失フニ至ルヘシ。古人曰。人事成敗利鈍。懸在分秒間ト夫レ普通ノ人事ニ於テスラ尚ホ且ツ然リ。況ムヤ我が警察ノ職務タル尨雜ナル活動社會ニ先チテ毅然百事ヲ處スヘキモノナルヲ以テ。或ハ其機ノ已ニ萌動スルニ當リ。或ハ未ダ其度ノ熾盛ナラザルニ制スル等。即決果斷

シ。機智敏才ヲ利用スルノ如何ニ據リテ。一髮不容ノ間ニ非常ノ大功ヲ收メ。非常ノ大敗ヲ取ルト實ニ尨カラザルナリ。夫レ酒ハ微醉ニ在リテ興味ヲ存ス。詩ハ再思ニ止メテ真趣ヲ失ハズ。決斷モ亦然リ。固ヨリ前後思想モナク果斷決行スルハ極メテ不可ナリ。一應充分ナル細思精考ヲ要スルハ勿論ナリト雖也。左視右眄得失ヲ胸中ニ鬪ハシ。漫然頤ヲ支ヘテ利害ノ境ニ躑躅シツ。日又日ヲ送ルルキハ。事功ノ擧ラムト望ムモ遂ニ得ベカラザルナリ。若シ夫レ之ニ及シ即斷決行スルルキハ。時ニ或ハ過失ナキニシモアラズト雖也通例勇斷果決ノ爲メニ生ズル害ハ極メテ少ク。優柔不断ノ爲メニ釀ス害ハ甚ダ多シ。且一旦奮然志ヲ決シ。必生ノカヲ盡シテ勇往斷行スルルキハ。實ニ非常ノ勇氣ヲ生ジ非常ノ功ヲ奏

スルモノナリ。養生法ニモ言ヘルアリ。身体ヲ使用シテ諸部分ノ滋養ヲ得ルニ。真ニ其實效ヲ致サムト欲セバ。先ツ其為スベキノ方向目的ヲ定メテ神經ノ激勵ヲ促サ、ルベカラズ。蓋シ神經ノ激勵スルキハ。筋力ヲ生ズルヲ甚ク強盛ニシテ。一筋ニ百「ポムト」ノ重サヲ支フルニ足ルモ。其筋ヲ人体ヨリ離スキハ。神經ノ激勵ニ感ゼザルヲ以テ。十「ポムト」ノ重サヲモ尚支フルヲ能ハズ。彼ノ危険ニ際シ急劇ニ已レガ欲スル所ヲ達セムトスルニ當リ。非常ナル膂力ノ生ズルハ。是レ全ク神經ノ激勵ニ基クモノナリト云フ。余嘗テ親ク之ヲ故綿貫警視副總監ニ聞ク。去ル明治十年西南ノ役薩軍日向ニ集マリ。鹿兒島城下殆ムド空虚ナリシキ。西郷隆盛ハ突然銳鋒ヲ轉ジテ鹿兒島城ニ歸リ。傷ヲ負ヒタル狂獅ノ如ク奮撃

シタルヲ以テ。氏ハ小數ナル殘德ノ巡查ヲ卒井テ私學校ノ東南二丁許リ隔リタル米廩ヲ枕トシ。一同斷然死ヲ決シテ之レニ楯籠リ。日夜劇戰寸毫モ心ヲ動カサ、リレヲ以テ。勇悍ナル數多ノ薩兵モ。竟ニ區々一米廩ヲ抜クヲ能ハザリシト。又夕同役ニ故川路大警視ハ。陸軍少將ヲ拜シ征討旅團司令長官トナリ。部下ノ巡查ヲ帥井肥薩ノ間ニ轉戰血闘シ。大小七十四合ニシテ凱旋セリ。其帥井シ所ノ巡查ハ。皆ナ其嘗テ訓練セシ所ノ者ナリト雖。氏元來軍兵ト異ナリ戰鬥ニ慣レシモノニモアラズ。然レ氏刀銃並ビ用ヒテ短刀直入精悍前ナク。抜刀ノ一隊敵兵ヲシテ毎ニ畏懼セシメタリ。大警視ノ述懐ニ曰。別成挺隊三千兒協力同心山可移。生死人間元有命。丈夫無信亦何為。ト以テ其決意ノ確乎ナルヲ知ルベシ。

又千八百六十六年ノ頃米國マツサチニセツト州ニ一揆起リ
 三千ノ暴徒各兇器ヲ携ヘ巡查ニ向テ進撃シ。唯一撃ノ下ニ
 鏖ニセムトスルノ勢アリシカバ。巡查ハ忠憤ノ情敵愾ノ氣
 愈激昂シ。奮然身ヲ投シテ公衆ノ安全ヲ保護セムトヲカメ。
 其數僅カニ二十人ニ過ギザリシト雖モ。一心全体鐵石ヨリ
 モ堅ク。兇徒沸騰ノ中心ニ向テ直前勇往斬テ入り。縱横無盡
 ニ亂撃シテ竟ニ其首領ヲ擒ニシタレバ。蟻集烏合ノ奴輩ハ
 忽チ四散五分シテ分時ヲ出テザルニ全ク鎮靜シ。恰モ大風
 吹キ去テ霽月皎々碧空ニ懸ルノ光景ヲ顯シタリト。以上歷
 舉セシ實例ノ如キ皆ナ衆寡ヲ以テ論ズレバ固ヨリ對敵ス
 ベキニアラズ。而シテ危ヲ轉ジテ易トシ全ク及對ノ結果ヲ
 顯ハシタル所以ノモノハ是レ皆ナ忠勇ナル警官等ガ。決心

斷行ノ致ス所ナリト云フベシ。

終ニ臨ムデ尚ホ一言スベキハ。勇斷果決ノ必要ナル丁ハ已
 ニ此ノ如シ。然レ氏一旦果斷決行スルモ。之レガ自信ノ念ニ
 薄弱ナル所ハ亦タ一弊ナリ。即チ如此ノ人ハ其思想行爲共
 ニ。恰モ玻璃鏡面ニ映スル所ノ畫影。種々様々ニ變動流移シ
 テ竟ニ一定セル實形トナルヲ能ハザルガ如ク。只徒ニ婆心
 ヲ勞シ配意ニ疲レ。無益ニ氣力ヲ消耗シテ止ムノ。即チ彼
 決斷ノ信ナキ流浪巡查ト唱フルモノ、如キモ亦タ其一ナ
 リ。流浪巡查トハ朝ニ甲縣ニ奉職シテ夕ニ辭シ。昨日乙縣ニ
 アルカト思ヘバ今日ハ已ニ甲縣へ來リ。去就恒ナク來往期
 ナク。種々ノ目的種々ノ手段トニ彷徨スルモノニシテ。彼ノ
 輩ハ遂ニ孰レニ向テモ其精神ヲ貫徹スル丁能ハズ。隨テ一

斷行ノ致ス所ナリト云フベシ。勇斷果決ノ必要ナル丁ハ已ニ此ノ如シ。然レ氏一旦果斷決行スルモ。之レガ自信ノ念ニ薄弱ナル所ハ亦タ一弊ナリ。即チ如此ノ人ハ其思想行爲共ニ。恰モ玻璃鏡面ニ映スル所ノ畫影。種々様々ニ變動流移シテ竟ニ一定セル實形トナルヲ能ハザルガ如ク。只徒ニ婆心ヲ勞シ配意ニ疲レ。無益ニ氣力ヲ消耗シテ止ムノ。即チ彼決斷ノ信ナキ流浪巡查ト唱フルモノ、如キモ亦タ其一ナリ。流浪巡查トハ朝ニ甲縣ニ奉職シテ夕ニ辭シ。昨日乙縣ニアルカト思ヘバ今日ハ已ニ甲縣へ來リ。去就恒ナク來往期ナク。種々ノ目的種々ノ手段トニ彷徨スルモノニシテ。彼ノ輩ハ遂ニ孰レニ向テモ其精神ヲ貫徹スル丁能ハズ。隨テ一

勇斷果決ノ必要ナル丁ハ已ニ此ノ如シ。然レ氏一旦果斷決行スルモ。之レガ自信ノ念ニ薄弱ナル所ハ亦タ一弊ナリ。即チ如此ノ人ハ其思想行爲共ニ。恰モ玻璃鏡面ニ映スル所ノ畫影。種々様々ニ變動流移シテ竟ニ一定セル實形トナルヲ能ハザルガ如ク。只徒ニ婆心ヲ勞シ配意ニ疲レ。無益ニ氣力ヲ消耗シテ止ムノ。即チ彼決斷ノ信ナキ流浪巡查ト唱フルモノ、如キモ亦タ其一ナリ。流浪巡查トハ朝ニ甲縣ニ奉職シテ夕ニ辭シ。昨日乙縣ニアルカト思ヘバ今日ハ已ニ甲縣へ來リ。去就恒ナク來往期ナク。種々ノ目的種々ノ手段トニ彷徨スルモノニシテ。彼ノ輩ハ遂ニ孰レニ向テモ其精神ヲ貫徹スル丁能ハズ。隨テ一

勇斷果決ノ必要ナル丁ハ已ニ此ノ如シ。然レ氏一旦果斷決行スルモ。之レガ自信ノ念ニ薄弱ナル所ハ亦タ一弊ナリ。即チ如此ノ人ハ其思想行爲共ニ。恰モ玻璃鏡面ニ映スル所ノ畫影。種々様々ニ變動流移シテ竟ニ一定セル實形トナルヲ能ハザルガ如ク。只徒ニ婆心ヲ勞シ配意ニ疲レ。無益ニ氣力ヲ消耗シテ止ムノ。即チ彼決斷ノ信ナキ流浪巡查ト唱フルモノ、如キモ亦タ其一ナリ。流浪巡查トハ朝ニ甲縣ニ奉職シテ夕ニ辭シ。昨日乙縣ニアルカト思ヘバ今日ハ已ニ甲縣へ來リ。去就恒ナク來往期ナク。種々ノ目的種々ノ手段トニ彷徨スルモノニシテ。彼ノ輩ハ遂ニ孰レニ向テモ其精神ヲ貫徹スル丁能ハズ。隨テ一

三十九

ト為スト是レ
實ニ要ヲ得タ
ルノ言ナリ大
抵人ノ岐路ニ
彷徨シテ勇往
邁進スル能ハ
ザル所以ハ其
利害ノ決ニ苦
ムヲ以テノミ
故ニ事苟モ義
ニ當ラバ即決
斷行敢テ遂難
スル所ナカル
ベシ利害ハ宜
シク問フベキ
所ニ非ズ常人
ニ於テモ猶然
リ況ンヤ官ニ
在リ深ク食ム
者ニシテ若シ
自家ノ利害ノ
為ニ撥ラズビ
事ヲ誤ル如キ
アラバ其不忠
不信孰レカ焉
ヨリ大ナル者
フラン是堂殊
ニ意ヲ致ス所
以ナリ諸君互
シク注意スベ
ク又日未段一節

ル畢竟一旦決
セテ所ノ事ニ
シテ半途ニ變
轉スル如キハ
之ヲ真ノ決斷
ト云フベカラ
ズ自信ニ厚カ
ラザル者独々
此斷アリ故ニ
余嘗テ子弟ヲ
諭レテ曰ヘラ
ク巴慮ハ最初
ニ着手セシム
ニ無分別ニ為
ハ作レヨト或
ハ作レハ体
メテ一退狐
疑猶存シテハ
何事ヲモ成就
シ得ベキモ
ニ非ザルヲ以
テナリ然レモ
一且決セシモ
ニテモ若シ其
ノ誤謬多ク非
理タルヲ發見
ヤバ亦宜シク
速ニ之ヲ改ム
ベシ過テアル
ハ非ヨテ諸子
ハ決シテ君子
ノ行ヒニ非ズ

事モ成功スルコトヲ得ズ。只ク終始狼狽以テ其一生ヲ畢ル而
已。豈ニ浩歎ノ至リナラズヤ豈ニ深ク猛省セザルベケム哉。
第七章 質素節儉

古人云。衣食足而後知禮節。又云。有恒産而後有恒心。ト夫レ計
入而爲出ハ是レ經濟之大本也。若シ一朝出入相稱ハザルコ
アラムカ。家道一頓忽チ其恒ヲ失シ立口ニ從來ノ品位ヲ保
ツコト能ハザルニ至ラム。然ラバ則チ豫メ之ニ備フルノ道如
何。曰ク只質素ヲ守リ節儉ヲ爲スノ外アラザル也矣。
凡ソ奢侈ナルモノハ。得意満足ヨリ起ルモノニシテ多クハ
志逸シ氣驕ルモノナリ。儉素ハ之ニ反シテ前途ニ期望ヲ抱
ケルヨリ生ズルモノナルヲ以テ。通常志奮ヒ氣強ナルモノ
ニシテ。多年此ノ習慣ニ身ヲ措クキハ。居也者移氣ノ格言ノ

如ク。知ラズ識ラズ人ノ品性ヲ衰ジ。甲者ハ怠荒ニ流レテ軟
弱ニ失シ。乙者ハ自然毅強ノ風骨ヲ具フルニ至ルモノナリ。
之ヲ邦國ノ盛衰ニ譬フレバ。希臘ノ列國ナル阿善ハ奢侈ニ
溺レテ。斯巴爾多ノ儉素ニ打勝タレ。又タ羅馬埃及ノ如キモ。浮
皆ナ奢侈ノ爲メニ。曾テ野蠻ナリ未開ナリト輕視セシ民族
ヨリ竟ニ滅却セラレタリ。近ク徳川幕府ノ末路ノ如キモ。浮
華風ヲ爲シテ自ラ救フコト能ハズ。遂ニ薩摩準人ノ素朴ニ擊
破セラレタルノ迹アルヲ見ルナリ。彼ノ亭國先主ふれてリ
フク第二世ハ。奢侈ヲ懼ル、丁冠ノ如ク。行道ニ奢靡及遊惰
ナルモノヲ覩レバ。親ラ策ヲ執テ之ヲ鞭撻シタリト。是レ即
チ亭國ノ盛隆ヲ極メシ根源ナリ。余嘗テ警官練習所ニ在リ
テ。獨乙教師ヘーん氏ニ就キ教ヲ承ケタル丁アリ。熟々同氏

警官練習所

質素節儉

四十

西處曰休認實
驗セシ者ニ非
ナレハ此言ヲ
ナス能ハズ亦
此意ヲ知ル能
ハス

ノ平素ヲ視ルニ。頗ル質素ニシテ。其衣服ノ如キハ夏服一着
ト冬服一着トニテ。何程ヲ經テモ此二様ノ服ヨリ外ニ換ヘ
タルヲ無キニ據リ。試ミニ譯官ニ就キ之ヲ問ヘバ。豫備ノ衣
服杯ハ無キモノ、如シト云ヘリ。宜ナル哉今年巡回トシテ
本縣へ來リシ節モ亦夕彼ノ衣服ナリキ。又氏ノ各府縣巡回
ニ出ルヤ。何如ナル有名ナル美術品ノ産出地ニ至ルモ。之ヲ
購求セムト欲スルノ念慮ヲ起シタルヲナク。其淡々如タル
丁實ニ人ヲシテ感服セシム。今其一例ヲ舉ゲム。嚮キニ京都
ヲ巡回シタルニ。氏ノ夫人及ビ息女ハ。同地ハ美術品ニ富メ
ルヲ已ニ熟知セルヲ以テ。必ず立派ナル土産アラムヲヲ
心竊カニ期シ居リシニ。豈ニ圖ラムヤ氏ハ家ニ歸ルニ及ム
テ。一モ齋シ來リクル所ノモノナキニ據リ。痛ク失望ヲ極メ

タリト云フ。嗚呼身ハ外國ノ教師トシテ聘用セラレ。尠カラ
ザル厚遇ヲ承ケナガラ。其儉素此ノ如シ同國人民一般ノ風
尚推テ知ルベシ。亭漏生王國ノ今日虎豹羽翼ヲ生ジテ。彼蒼
ニ飛騰スルガ如キ勢アルハ誠ニ故ナキニアラザルナリ。
然リ而シテ元來儉素ナルモノハ。青年易老學難成。此語雖諳
亦自輕ト云フノ詩句ト一般。口ニハ唱ヘ易クメ甚實行シ難
キモノナリ。譬へハ爰ニ一夜ノ飲酒一日ノ觀劇ト雖モ。稍ヤ
其驕ヲ極ムレバ最早一周ノ生計一領ノ衣服ヨリ其費額多
カルベシ。若シ之ヲ書籍其他高尚ナル快樂ヲ與フルノ物品
購求費等ニ充テムカ。我が智識ヲ養ヒ我が心情ヲ慰メ。獨リ
自身ノ幸福ノミナラズ家人ノ欣喜ハ果シテ何如ナラム。然
レ氏之ヲ實行スル能ハザルハ吾人ノ通患ナリ。抑モ余ノ斯

質素節儉

四十一

ク喋々之ヲ辨ズル所以ノモノハ。凡ソ人ハ儉素ノ美德ナキ
ヨリ志氣奮ハズ。隨テ學術モ亦荒サミ道義モ亦壞レ。家族的
ノ幸福ヲ滅殺シ去リテ一家破滅ノ境ニ沈ミ。竟ニハ其身モ
職ニ安ズルヲ能ハザルニ至ルモノ甚ダ多キヲ見レバナリ。
余ヤ甚ダ貧賤ニシテ固ヨリ奢侈ヲ極ムルノ餘裕ナキヨリ
起ルモノナリト雖氏。燥髮以來今日ニ至ル迄。未ダ曾テ家人
ニ向テ説明シ難キノ金銀ヲ遣ヒ出シタルヲ覺ヘザルナ
リ。嗚呼讀者ヨ吾ハ區々タル一眇少ノ身ヲ以テ世ニ處シ。真
ニ是レ滄海ノ一粟タルニ過ギズト雖氏。決シテ自ラ輕ズベ
カラズ。我身ハ是レ一家數口ノ據テ以テ安危ヲ繫ゲルモノ
ナリ。祖先ハ我ニ據リ以テ祭祀ヲ承ケ居ルモノナリ。加之ナ
ラズ一國家ノ價直ハ實ニ一箇人志行ノ修否ニ職由シ。一國

家ノ勢力ハ實ニ一箇人資産ノ贏縮ニ比例ス。蓋シ一國ノ品
位ハ吾人品位ノ集合ニシテ。吾人ノ經濟ハ一國經濟ノ分子
ナレバナリ。彼ノ連鎖ノ強韌ナルハ即チ箇々ノ環子悉ク皆
ナ鞏固ナルヲ以テノ故ナリ。獨乙ノ碩學ぶりゆむちゆり
曰。凡ソ邦國也者男子也。自由及自制的男情之物体也。故其第
一要素則作勤男子之氣象也。ト由是觀之則チ一國モ亦夕全
ク我ニ據テ樹立セルモノト謂フベシ。豈自重セサルベケムヤ。
抑モ人ノ斯世ニ處スルハ。恰モ尚危海險山ヲ跋渉スルニ。何
時狂颶ノ吹キ起リテ船ヲ覆ヘシ。何刻猛獸ノ現ハレテ我ヲ
襲フヤモ知ルベカラザルガ如ク。吾人ハ何時風火震災ニ據
リテ。家財ヲ奪ハレ疾病事故ニ罹リテ。此ノ身ヲ苦メラル、
ヤ知ルベカラズ。故ニ治ニ居テ亂ヲ忘レズ。無事ノ日ニ當テ

晦處曰儉ノ美
 徳タル人皆之
 ナ知ラザルハ
 非ス而モ猶實
 際ニ行ハレ難
 キ所以ノモノ
 其ノ原蓋シニ
 アリ一ハ自カ
 ラクニ由ルニ
 ハ他ヲ羨ムノ
 情識ナルニ由
 ル人ノ大志ナ
 キ者多クハ之
 ヲ免ル能ハ
 ズ抑モ滋味聲
 色速樂優遊人
 誰レカ之ヲ欲
 セザラシムル
 テ一夕ビ快樂

豫メ不虞ニ備ヘザレバ。忽チ産ヲ落シ家ヲ破リ父母ヲシテ
 依頼スル所ナク。妻子ヲシテ飢寒ニ泣カシメサルモノ殆ム
 ト稀ナリ。夫レ巡查ノ俸給ハ少ク巡查ノ手當ハ厚カラズト
 雖モ能ク質素其度ヲ守リテ節儉ヲナセバ。身ヲ立テ家ヲ支
 フルニ足ラザルニアラズ。顧ミレバ世ニハ富資ヲ受ケ高金
 ヲ領シナガラ債鬼ニ迫ラレ出入地ナキモノ幾何アルヲ知
 ルベカラズ。故ニ苟モ志ヲ立テ、娑婆界ニ馳騁スル以上ハ。
 俸給ノ多カラザルヲ憂ヘズ。宜ク我が儉素ナラザルヲ憂フ
 ベシ。余之ヲ聞ク本縣巡查ニシテ。多年精勤シ浮華ニ流レズ
 能ク儉素ヲ守レル某々等ノ如キハ。永ク塵積主義ヲ守リテ
 耐忍財ヲ蓄ヘ。或人ハ數百圓ヲ積ミ。或人ハ數町ノ田園ヲ購
 ビ。或人ハ莊麗ナル數軒ノ貸家ヲ作ル。杯ニテ最早何時現職

ヲ退クモ。優々老ヲ養ヒ又子孫ヲ教育スルニ差支ナシト云
 フ。豈ニ快事ナラズヤ。雖然輕卒ノ機敏ニ於ケル。客氣ノ剛毅
 ニ於ケルヤ。間々相類似スルガ如ク。儉素モ亦タ其境界ヲ超
 ヘテ吝嗇ノ畛域ニ進ミ。貪婪行ヲ汚スニ至リテハ大ナル誤
 リナルヲ以テ。深ク注意セザルベカラザルナリ。
 終リニ臨ムデ尚ホ一言スベキモノアリ。則チ吾人不慮ニ備
 フル覺悟ナカルベカラザル事ハ。已ニ上文ニ陳辨セシ所ノ
 如シ。然リ而シテ職ヲ奉ズルノ身分ニアリテハ。尚ホ一層其
 必要ノ切ナルヲ覺ユルナリ。古シ武士ハ其身ニハ敝衣ヲ纏
 ビ。米櫃ヲ叩ケバ一粒ヲ餘サバルモ。具足箱ニハ出陣ノ用心
 金トテ多クハ五十金若クハ百金ヲ貯蓄セシガ如ク。在官ノ
 モノ殊ニ我々警察ニ職ヲ奉ズルモノハ。不眠不休晝夜間斷

儉素節儉
 四十三

ヲ感セシ事物
ハ終身之ヲ忘
ル得ルハ之ヲ
シハ之ヲ及復
セント欲スル
ハ人ノ通情ナ
リ情熱益熾ナ
レバ熱自カラ
ラ禁シ自カラ
クツテ能ハサ
ルニ至ル是レ
倫ノ行ハレシ
キ所以ナリス
近來奢侈ハ世
上一般ノ風ト
ナリ夜會祝筵
其他日常ノ衣
食裝具ニ至ル
美ヲ競フ是レ
非ハレハ交際
社會ニ立ツ能
ハザルノ風ア
リ幸業ト生活
ト全ク其確衡
ヲ失ヒ濫出浪
費等テ之ヲ量
リ之ヲ制スル
リヲ知ラズ四
海ノ困窮スル
風俗ノ壞頹ス
ル

ニ之レ由ラザ
ルハナシ是亦
儉ノ行ハレ難
キ所以ナリ而
シ其然ル所以
ヲ察スレバ皆
精神的高尚ノ
愉快ア一ヲ知
ラズ一ヲ一ヲ
体ノ若シテ食
ルニ由レリ鳴
呼男ニ大心ナ
クンバ則チヒ
マン持テ熱途
ノ期望ヲ抱テ
者其勤儉以テ
事ニ從ハザル
ベケンヤ

ナク服務シ。事端ノ發スルニ隨テ快速抄分ヲ爭フテ之ニ應
ゼザルベカラザルモノナレバ。時アリテハ即夜數十里外ニ
向テ馳セ。時アリテハ即時發足數十日モ。他縣ニ淹留セザル
ベカラザル。生ズルモ豫知スベカラズ。是ヲ以テ平素家
政ニ供スル豫備金ノ外。多少ノ用心金ヲ衣囊ニ備フルハ尤
モ必用ノ。丁タリ。昨年ノ警察巡閱ニ當リ柳河警察署ニ於テ
我ガ警部長ハ。夜半俄然非常召集令ヲ發セラレタリシニ。之
ニ應ジ馳セ集リタル巡查ハ皆ナ多少ノ用心金ヲ携ヘ居タ
リ。是レ兼テ署長ノ注意セル所ニ依レリト云フ。甚ダ宜シキ
ヲ得タリト云フベシ。

第八章 容儀言語

哲理界ヨリシテ達觀シ來ラバ。吾人ノ元來尊ムベキモノハ。
形而上ニ屬スル心術ノ存養ノミ。氣韻ノ保持ノミ。形而下ニ
於ケル區々タル容儀言語ノ如キ亦夕何ムカアラム。雖然擾
々タル衆民ハ。其内部ノ養否如何ヲ問フニ遑アラズ。普通其
親愛尊敬ノ觀念ヲ惹起スル所以ノモノハ。先ヅ有形的容儀
言語ノ好否ニ據テ之ヲ決スル。多シ。故ニ此一事ハ誠ニ輕
微ナルガ如シト雖。決シテ忽諸ニ附シ去ル。能ハザルナ
リ。夫レ警察官ナルモノハ專ラ刀筆ヲ弄スルノ吏ニアラズ。
簿書ヲ守ルノ官ニアラズ。常ニ人民ニ直接シ。之ヲ指揮シ之
ヲ保導スルノ衝ニ當ルモノナリ。故ニ其容儀言語ノ日常諸
般ノ事ニ關係ヲ有スル實ニ切實ナリト謂フベシ。是レ警察
官ニ限リテ莊嚴ナル服制ノ規定アル所以ニシテ。就中警官
中最モ頻繁ニ人民ニ接遇スルモノハ巡查ナルヲ以テ。此ノ

警察官同僚

容儀言語

四十四

任ニ居ルモノハ最モ密ニ。最モ精ニ。一層之ニ注意セザルベカラザルノ必要アルヲ信ズルナリ。
 抑モ巡查ノ制服ハ粗ナリ。巡查ノ装束ハ美ナラズト雖モ。警察巡閱ニ當リ。余ハ警部長ニ隨行シテ各地巡回シ。親シク巡查ノ服装ヲ熟看スルニ。能ク保存シ能ク着用シ。精悍シキ觀アリ誠ニ感心スベキモノアルモ。間ニハ亂雜極リテ怠慢ノ狀ヲ現ハシ。一見厭フベキノ念ヲ浮バシムルモノアリ。元ト是レ同價格ノ服ヲ同時期ニ渡シタルモノナルモ。平素注意ノ如何ニ據リテ僅々タル歲月ノ間ニ。如此非常ノ差違ヲ生ズルヲ見ル。況ムヤ本編ニ言フ所ノ本旨ハ單ニ服装ノ整否如何ノミニアラズ。主トシテ其容儀ノ秀逸ヲラムトテ望ムモノナルヲ以テ。多年ノ間終始淬勵。充分ナル徳義ノ存養ヲ

ナサズムバ。到底此ノ高潔ナル妙域ニ達スル丁能ハザルナリ。言語ニ就テハ古代ノ賢王そろもむハ下文ノ教訓ヲ下シタリ。曰就業中、話職業之事。ト官吏タルモノ服務中職務ニ關係ナキ事ハ。決シテ之ヲ談ズベカラズ。決シテ之ヲ話スベカラズ。假令職務ニ係ル事項ナリト雖モ無用ノ多言ハ頗ル威嚴ヲ減殺シ。言語ノ鄭重ヲ欠ギ。通例自己ノ品價ヲ損スルノミナラズ平素多言ノモノハ偶々事アルニ臨ミ。如何ナル高論卓説ヲ吐クモ。他人ハ全ク之レニ感動セザルハ勿論。耳ヲ傾ケテ熟聽スルモノナキニ至ルベシ。其言語ニ注意スベキ要點ハ左ノ如シ。

一 明瞭ナル事

二 懇切丁寧ナル事

三冗長ナル語句ヲ用井ザル事

四贅語ヲ省略スル事

五禮義ノ体裁ヲ具スル事

殊ニ他人ノ問ニ答フルガ如キハ須ラク精確ナルベシ。決シテ曖昧模糊ノ言辭ヲ使用スベカラズ。若シ一點タリトモ疑評ノ存スル丁アレバ、充分其理ヲ明確ニ詳述シ、其調査ヲ命ゼラレタル件ノ如キハ、必ず書面ヲ以テ之ニ報答スル丁肝要ナリトス。

抑モ已レノ懐抱セル懇切ヲ表示シ、他人ノ情感ヲ慰藉シ、愛慕ノ觀念ヲ惹起セシムルモノハ、平素詞バノ遣ヒ方ヨリ先ナルハナシ。然レモ寒村僻邑ニ至リテハ、警察官タルモノ動モスレバ、威嚴ヲ持スル丁其度ニ過ギ、隨テ言語ノ嚴格ナル

ヨリ、人民ハ概子外ニ畏敬ノ容ヲ存スルモ、内ニ愛敬ノ實アルモノ尠シ。實ニ痛嘆厭忌スベキノ次第ナラズヤ。元來警官タルモノハ保護ノ任ニ當ルモノナレバ、常ニ仁愛補保ノ心ヲ存シ、其人民ヲ待遇スルヤ深切ヲ極メ、彼レ若シ暴戾ノ言語ヲナスモ、我ハ道理ニ據リテ悃誠ヲ盡シ、恰モ傳母ノ幼兒ニ於ケルガ如クナラザルベカラズ。凡ソ人ハ愛敬ノ心生ジテ、始メテ依信ノ情ヲ來スモノナリ。故ニ万般懇切ヲ主トシ、道路橋梁ヲ通行スルニモ、成ルベク往来ノ便ヲ得セシムル爲メ、左側又ハ右側ニ浴ヒテ歩行シ、地理、方角、路程、旅舎、或ハ時間等其他何事ニ據ラズ、苟モ尋問ヲ受ケ又ハ誨諭スベキ事モアレバ、丁寧反覆、貴賤貧富、種族ノ何タルヲ問ハズ、温言和辭以テ宜シク之ニ接スベキナリ。

晦處曰言語容
貌模倣シ得ベ
キモノアリ模
倣シ得ベカラ
ズルモノアリ
用語ノ雅俗長
短ノ如キ容貌
如キ是レ模倣
ナリ然レモ一
句一言ノ中自
カラ藹然タル
和氣アリ一舉
一動、間自カ
ラ温乎タル儀
容アルガ如キ

警務司官制

密儀言語

四十六

ハ固ヨリ其人ノ素養何如ニ存ス一時摸倣ノ能ク做シ得ベキモノニ非ズ故ニ内ニ寛厚ノ徳ナクシテ外沈着ノ風ヲ粧ヒ内ニ剛毅ノ實ナクシテ外威嚴ノ容ヲ示シ是猶排優ノ正ト淨トニ扮スルガゴトシ焉ッ能ク他ヲシテ親愛異教ノ念ヲ起ラシムルニ足ラシヤ
 本章ハ宜シク第四章ト併シテ看ルベシ

第九章

學識培養

抑モ警察官ナルモノハ世運進化ノ程度ニ先タズ後レズ。眞ニ是レ追隨伴侶シテ事務ヲ執行スルモノナレバ。之レニ應ジテ操縦取捨其宜ヲ制セムト欲セバ。先ヅ其智識ノ根本ヲ固メ。充分余勇ヲ養ヒ素カヲ貯ヘ置カザルベカラズ。夫レ馭術ニ達セザルノ白漢ハ。悍馬ニ撻チ得ベカラズ。病理ニ通ゼザルノ庸醫ハ。針藥ヲ施シ得ベカラザルガ如ク。警官タルモノ事ヲ處スルニ。其理ニ暗ク務ヲ辨ズルニ。其道ヲ知ラザレバ。獨リ之レガ滯滞ヲ来スノミナラズ。如何ナル舛錯ヲ醸スヤモ測ルベカラザルナリ。殊ニ今日ハ閉天鎖地ノ優々タル時代ニアラズ。正ニ是レ日進文明。東西競争ノ世トナリタレバ。世間一般學問ノ程度ハ。實ニ日進月歩ノ勢ヲ現ハシ。國民

智慧ノ發達ハ眞ニ是レ瀛車ノ鐵軌ヲ疾驅スルノ勢アリ。若シ此時ニ當リ之レガ保傳ノ任ニ當レル保護官ニシテ。識カ普通人民ヨリ劣等ナラムカ。何ヲ以テ之ニ説諭シ之ヲ保護スルコトヲ得ム。故ニ此際其位地ヲ保チ其責任ヲ全セムト欲セバ。平素閑アレバ則チ充分理ヲ講ジ。文ヲ練リ置カザルベカラズ。泰西諸國ニ於テモ大學ニ在ル。諸學科ノ教官ハ寸時モ怠ラズ。全力ヲ盡シテ其擔當ニ屬スル。學科ヲ精研シ居ラザレハ。忽チ一般學歩ノ進度ニ後レテ。其任ヲ全スルコト能ハザルニ至ルト。況ムヤ此ノ文明長足ノ最中ナル我國ノ今日ニ於テヲヤ。

余今此ノ如ク講學ノ必要ヲ説キ來レバ。讀者ハ或ハ言ハムトス。其ノ説ハ不可ナシ其論ハ同感ナリ。然レモ勤務繁多ニ

シテ之レガ隙ナキヲ如何セムト。夫レ然リ豈ニ夫レ然ラ
ムヤ。余熟々古今講學ノ士ヲ視ルニ。皆優々タル閑日月アリ
テ始メテ學ヲ講ズルニアラズ。多クハ零碎ノ光陰ヲ偷ミ。分
秒ノ隙駒ヲ拾フテ之ヲ大成セルモノナリ。夫レ漁獵ニ冷淡
ナルモノハ閑隙ナキニ據リ之ヲ事トセズト云ヒ。之ヲ熱好
スルモノハ千思萬慮竟ニ幾多ノ閑隙ヲ見出シテ。釣竿ヲ横
ヘ獵銃ヲ肩ニスルヲ見ルナリ。余性甚ダ馬ヲ好ム。故ニ若シ
休日ニ當リ。僚友間近郊遠乘等ノ舉アルキハ。私事ハ如何ナ
ル多端ノ際ナリト雖。之ヲ放却シテ必ズ遊鞭ヲ揚ルヲ常
トセリ。學問モ亦夕然リ之レニ冷淡ナレバ。コソ暇ナケレ。氏
若シ眞實ニ如好^ウ好色^ウ。如惡^ウ惡臭^ウ之レニ熱中スレバ。何ゾ閑隙
ナキヲ憂ヘムヤ。

余ヤ常ニ窈カニ思フ。余モ亦夕情感的ノ動物ナリ。遊宴ニ好
マザルニアラズ。婦女ヲ愛セザルニアラズ。然レ氏居常之レ
ニ及バザルハ其暇ナケレバナリト。然ルニ本縣巡查ニシテ
從來ノ經驗ニ據レバ。飲酒又ハ婦女等ニ間接若クハ直接之
レニ原因シテ懲戒セラル、モノ甚ダ多キヲ見レバ。余ハ決
シテ或者ノ講學ノ暇ナシト云フヲ信ズル能ハザルナリ。現
ニ余ガ知ル所ノ一巡查アリ。管下其警察署ニ在勤ス。余ハ幼
時同人ト共ニ臂ヲ交ヘテ。同ジク鄉費ニ昇リ居リタルモ。故
アリテ爾來相見ザルコト十數年。近頃傳ヘ聞ク所ニ據レバ。同
人ハ本縣又ハ某縣ニ於テ永ラク商業ニ從事シ。去ル十八年
以來本縣巡查ヲ奉職シタリト。故ニ余ハ心窈カニ同人ガ學
事ニ荒サキ居ルト。妄斷漫想シ居リシニ。豈ニ圖ムヤ本年警

察巡閱ノ際。同人ガ作リタル論文ヲ一見シ。余ハ實ニ其行文ノ流暢ナルト。其理想ニ富贍ナルトニ一驚ヲ喫シタリ。俟テ其後當該署長ニ面晤スルノ機ヲ得ルヤ。余ハ直ニ該巡查ガ其平素講學ノ狀如何ヲ叩キシニ。宜ナル哉該署長ノ言ヘル所ニ據レバ。同巡查ハ實ニ異常ノ學術精研家ニシテ。平素受クル所ノ月俸ノ過半ハ。書籍購求ノ資ニ充テ。公務ノ餘暇ハ。講文究理ノ外ニハ殆ムド餘念ナク。隨テ其學識已ニ侮リ易カラザルヨリ。在勤地方ノ重立タルモノハ。皆ナ之ヲ尊敬セザルハナシト。此時同席ニ在リテ終始。此對話ヲ默聽セル某署長アリ。談巡查當初拜命ノ際ニ當リ。其署長ノ配下ニ赴任シ來リ在勤セシ趣ニテ。該署長モ同巡查ガ其當時ノ學問ハ誠ニ言フニ足ラザルモノナリシモ。其之レニ熱心ナリシハ

實ニ感服ノ外ナカリシニ。士三日別。則刮目而可觀。其耐久ノ效竟ニ今日ノ現狀ニ至リタルカトテ。大ニ之ヲ贊歎シタリ。由是觀之。余ハ斷ジテ其寸暇ナキニアラザルヲ信ズルナリ。余ヤ元ト是レ淺陋無識ノ一餽生。敢テ好ムデ說述スルニハアラザレト以上ノ自說ヲ述ブル實ニ幼時ヨリ實踐スル所ナレバ。啾々トシテ此ニ及ミリ。古賢ありすと一とるハ爲ニ真理。殺肉濺血。吾輩哲學士職分也。故雖親友。非不愛而愛。此真理甚於愛親友也ト云ヘリ。

附録

以下二條校閱者ガ茂久ノ手紀スル所ヲ得テ之ヲ補ヒ。人ヲシテ前後條件ノ實踐ニ出ルヲ知ラシム。

余ヤ家計素ヨリ殷富ナラザレト。年齡七八歲迄ハ。別ニ何

不足ナク成長セシモ。九歳ノ頃ヨリシテ故アリ。極メテ貧困ナル境遇ニ陥リ。曾テ村夫子ノ習字堂ニ入り。又夕某ノ家塾ニ昇リテ教ヲ受ケシモ。家計益窮乏。到底前途講學ノ目的立ザルヨリ。終ニ大工ノ弟子トナル。丁ニ評議一決シ。余ハ慈父ニ携ヘラレテ。大工職某々ノ宅ニ二軒迄赴キシモ。談判相整ハザリシヲ以テ。悄然トシテ歸宅シ。爾後止ム。丁ヲ得ズ研學セムト欲スルモ。家ニ藏スル所ハ只朱註ノ大學壹卷ト。白文ノ五經壹部アルノミニシテ。其困難已ニ切ナルヲ覺ユルノ際。創メテ小學令ノ發布アリテ。其實施ニ遭遇シタレバ。余ハ即チ欣然之レニ轉ジタルモ。容易ニ教程ニ應ズルノ書籍ヲ購フ。丁能ハザルノミナラズ。筆紙ノ料尚ホ能ク之ヲ給スル。丁能ハザルノ狀アリ。於是乎余

ハ日夜苦慮熟考ヲ費ヤシテ。竟ニ一策ヲ按出シ。紙鳶ヲ作リテ之レガ學資ヲ得ムト企デタリ。然レ氏爰ニ一大困難ヲ感ジタルハ。我郷ニ用ウル所ノ紙鳶ニハ。皆ナ彩色シタル繪畫ヲ描ケルモ。余元ト繪畫ヲ能クセズ。是ニ於テ余ハ又夕數日焦慮シテ。即チ伯父ニ畫ヲ能クスルモノアルヨリ。一日其門ヲ叩キ素心ヲ吐露シテ以テ揮毫ヲ求メタルニ。伯父ハ余ガ志ヲ激賞シ。即時數葉ヲ畫テ與ヘタルニ據リ。余ハ學暇ニ之ヲ復寫シ。其彩色ノ方法ハ市街ノ店頭ニ掲ゲアルモノヲ見來リ。又ハ竹馬ノ諸友ガ弄ブ所ノモノヲ借リ。以テ之レニ丹青ヲ施シタルニ。稍美麗ナル繪畫成リシヲ以テ。即チ爰姪ノ補助ヲ得テ之ヲ紙鳶ニ製シタルニ。觀ルベキモノ出來シタリ。此ノ時ノ愉快ナリシ。丁實ニ

譬へんモノナク。余が童心ニ於テハ真ニ一大發明ヲナシタル如キ心地ニテ。今日ニ至ル迄如此愉快ヲ感ゼシトハ容易ニ之レアラザルナリ。夫ヲリ學暇ニハ勉強シテ之ヲ製シ。自カラ携帯シテ市中處々ノ小塵へ卸賣ヲナシタリ。余ハ爾後家人ノ補助ヲ得テ。毎年陽春ノ候ニ至レバ紙鳶ヲ製出シ。以テ學資ヲ作ルトナシタレバ。年齢十三歳ニ至ル迄ハ。毎ニ冬期コリシテ紙鳶ノ準備ヲ整へ。學暇ニハ其畫復寫ノ勞ヲ執リタリ。故ニ元來余ハ武骨鈍才ノ性ニテ。繪畫杯ノ出來得ルモノニアラザルモ。上文ノ狀勢止ムトヲ得ズ。幾百枚トナク復寫セシヲ以テ。今尚ホ紙鳶ニアル如キ畫ナレバ。之ヲ畫クニ敢テ困難ヲ覺ヘザルノミナラズ。是迄實用上諸般ノ雛形等ヲ畫クニ。其便利ヲ得シ

實ニ枚舉ニ遑アラザルナリ又此ノ復寫ノ爲メニ。一ノ意外ナル結果ヲ來シタル事アリ。即チ余ハ今日ニ於テモ尚ホ人並ニ書法ヲ能クセザルガ如ク。幼時ニ在リテハ其筆迹殊ニ拙劣ヲ極メタリシ。然ルニ日々學暇ニハ寸閑ナク此ノ繪畫ノ復寫ヲナセシヲ以テ。頗ニ著シルシク運筆作字ノ進歩ヲ爲シタリトテ。父母ハ屢々之ヲ賞揚シタリ。亦夕一奇ナリト云フベシ。然リ而シテ余ハ此ノ境遇ナルヲ以テ。主トシテ校友ノ書籍ヲ借り來リテ之ヲ謄寫セシガ。校友ハ元來各已レガ所用アリテ購求シタルモノナレバ。日課アリテ之ヲ借受ルノ時ナシ。故ニ余ハ毎夜借り來リ深更人定マルノ後迄筆寫ヲ試ミタルト屢ナリキ。右等ノ書籍ハ今尚ホ余が書架ニ存シテ。時々余が項門ノ針砭

トセリ。
又夕此ノ頃一ノ困難ニ逢遇シ。今日ニ至ル迄尚ホ全ク忘
レ得ス。回想スル毎ニ汗背ヲ濡スノ感ヲ催ス事アリ。余幼
時ヨリシテ。他人ト約シタルコトハ必ズ之ヲ踐行シ。其信
ヲ守ラムト期セリ。然ルニ學校ニ在リシモ。某日教則ノ
改正アリテ。余ハ爾時能ク慮レバ之ヲ購フノ資ナキトハ。
素ヨリ分明ナルトナレド。何心ナク二三ノ校友ニ勸ムル
ニ。俱ニ共ニ書肆ニ就キ。新教則中ノ某書ヲ購求セムトヲ
以テシタルニ。直ニ同意ヲ得タレバ。其携ヘ行クベキ代價
ヲ受取ラムガ爲メ。其校友等ヲ態々自邸迄連袖シ門外ニ
待タシメ。余ハ入りテ父母ニ其由ヲ告グルモ。即時調金ス
ル丁能ハズ。故ニ余ハ曩キニ主トシテ校友ヲ勸メテ

ヲ踏マセタルモ。今ハ自ラ其約ニ背カザルヲ得ザルノ次
第トナリタリ。此ノ時ニ當リ。實ニ余ガ腸ハ寸断シテ靨
爛ヲ發シ。忸怩此ニ極マリテ愧蹙措ク能ハズ。再ビ門外ニ
出デ、諸友ニ面スルノ勇氣ヲ失ヒタリ。今日ヨリ考フレ
バ格別ノ事ニアラザルモ。其當時余ガ童心ニ於テハ。實ニ
非常ナル耻辱ト非常ナル困難ニシテ。其感情ハ竟ニ余ヲ
シテ異日多年ノ間。幾多ノ辛苦ヲ嘗メテ職務ノ傍ニ講學
シ。之レニ堅忍シテ少シモ厭ハザルノ性質ヲ養成スルノ
要素トハナリタリ。是レ亦夕意外ナル結果ニシテ一奇ト
云フベシ。於是乎余ハ德慧術知存干疾疾ト云ヘル古言ノ
決シテ我ヲ欺カザルヲ信ズルナリ。
余ノ小學ニ在ルヤ。終カニ下等小學ノ六級ヲ卒業シタル

而已ニテ。學資已ニ給セズ。即チ十三歳ノ春期ニ至リテ。最早淚ヲ拂テ退學シ。些少ノ給料ノ爲メニ此ノ身ヲ仕途ノ末流ニ委子ガルヲ得ズ。漸ク生長シテ元氣ノ旺盛スルニ及ビ。講學ノ念ハ愈切迫スルモ。如何セム双親ハ益老ヘ家計ハ愈窮シ。再ビ足ヲ拔テ文學園裏ニ悠々トシテ。閑歩放遊スルノ快ヲ承クルヲ能ハザルノミナラズ。余ガ學齡兒童ニテアリナガラ。學事ヲ擲チ官衙ニ出頭スルヲ以テ。居常諸友ノ罵詈朝弄スル所トナリ。幼少ナガラモ憤慨ノ餘。深夜暗淚ノ枕頭ヲ濡セシヲ幾次ナルヲ知ラズ。慈父ハ之ヲ見テ毎ニ昔シ韓信股間ノ耻ヲ忍ビシ故事ヲ以テ慰諭シタリ。余ハ切齒扼腕日又タ一日。爾來十數年空シク淚ヲ吞ムデ形ノ役トナリ。只僅カニ年齡十六七ノ交ニ於テ。十

一ヶ月間閑散ノ身トナリシト。先年一ヶ年間。警官練習所ヘ在學セシトノミニテ。其他ハ小學ヲ退キシヨリ。今日廿七歳ノ壯齡ニ至ル迄。終始一日モ繁雜ナル職務ニ服セザルノ日ハコレアラザルナリ。故ニ平素其切齒ノ感ハ。即チ我ニ激昂ヲ與フルノ針砭ト爲リ。其扼腕ノ情ハ。即チ我ニ奮興ヲ與フルノ良劑ト爲リ。登廳ノ前。退廳ノ後。苟モ寸閑ノアルアレバ空過セムト欲スルモ得ベカラザルニ至レリ。公退ノ後多ク一宿儒ノ塾ニ上リ。經ヲ問ヒ或ハ自修シ必深夜ニ至リテ止ム。拙著凌雲齋詩文集二卷アリ。皆ナ是レ余ガ平素公私旁午ノ中ニ於テ。文思ヲ鍛練スル爲メニ精ヲ盡シテ作りタルモノニシテ。時アリテハ途中起稿シ。時アリテハ馬上若クハ車中ニ推敲シ。又時アリテハ喫飯

上卿ノ間ト雖凡尚ホ或ハ腹稿ヲ試ミタル汗血凝リテ竟ニ此ノ一塊トナリタルモノナリ。

余嘗テ山崎闇齋ノ傳ヲ讀ムニ左ノ記事アリ。甚ダ妙味アルノ言ニシテ苟モ斯道ニ達セシモノニアラザレバ此ノ言ヲ爲ス能ハザルナリ依テ之ヲ拔録ス。

會津侯嘗問闇齋曰。先生有樂乎。答曰。臣有三樂焉。凡天地之間有生者何限。而得爲萬物之靈。一樂也。天地間一治一亂。無定數而生右文之世。讀書學道。得與古之聖賢把臂于一堂上。一樂也。是臣之所樂也。侯曰。二樂既得聞之。請亦聞其一樂。曰。此其最大者。而所以難言者。君侯必不信。以爲毀訾誹謗。侯曰。寡人雖不敏。奉先生之言。孜孜求諫。渴聞忠言。何爲至今不終教乎。曰。君之言及此。臣假

逢戮辱。豈不盡言哉。所謂樂之最大者。幸生於卑賤。不生於侯家。是也。侯曰。敢問何謂也。曰。意者。今之爲諸侯也。生乎深宮之中。長於婦人之手。不學無術。徇聲色。耽遊戲。而爲之臣者。迎合主意。其所爲。因而稱舉之。其所不爲。因而非毀之。遂令本然性。括亡消滅矣。其視卑賤之幼。嘗辛苦長習。事務師教。友輔以益其智慮者。爲何如也。是臣之所以生於卑賤。不生於侯家。爲樂之最大也。於是侯茫然自失。嘆息曰。誠若先生之言。

嗚呼此ノ卑賤ハ愛スベシ。漫ニ厭フベカラズ。嗚呼此ノ辛苦ハ喜ブベシ。漫ニ辭スベカラザルナリ。天欲降斯人大任。必先餓肌膚。勞筋骨。拂亂其所爲。スト云ヘルニアラズヤ。余嘗テ華族某氏ト。年餘課ヲ同クシ職ヲ共ニセシアリ。

某氏ハ資性甚夕順正忠良ニシテ。且ツ風采莊麗。言論明快。真ニ世ノ名流タルニ耻ヂズ。然リト雖氏生来未夕曾テ難ヲ嘗メ困ヲ蹈ミタルトナキヲ以テ。恰モ鍛練足ラザルノ刀劔ノ如ク。以テ磐根ヲ切ルニ足ラズ。以テ措節ヲ断ツニ堪ヘズ。惜ムベシ此美質ヲ稟タルモ。富貴ノ爲メ遂ニ此ノ不幸ニ陥ル。聞齋ノ言決ンテ我ヲ欺カザルヲ知ル。抑モ吾人ハ疲勞ヲ極メ。心身殆ンド他事ヲ顧ミルニ遑アラガハル時ト雖氏。尚ホ時アリテハ高潔喜ブベキノ夢ヲ見。或ハ卑陋厭フベキノ夢ヲ現ズルハ。即チ是其心ニ存シ居ルナレバナリ。故ニ男子ニ兒ヲ産ムノ夢ナク。女子ニ妻ヲ娶ルノ夢アルヲ聞カズ。夫レ如此極メテ勞シ極メテ憊レ。人事不省ニ瀕スル際ナリト雖氏。尚ホ且ツ精神此ニ存シ居レバ。其一

章五五拾モ
全篇讀クモ
来論列ノ上
皆是レ昔者
多ク言テ少
ク行フ者流
比ニ非ザル
証スルニ足
又曰著者手
一段ヲ讀ム
及ヒ余カ狂
或レ部分ニ
テハ余ガ筆
通カニ著者
亦過カニ相
バザルモノ
取テテ余モ
事歴ヲ略シ
以テ同清相
ムノ意ヲ表
ン但著者ハ
ホ春秋ニ富
リ他日書雲

片ノ念慮我腦裏ヲ蟬脱シ去ルト能ハズ。況ムヤ其他ノ時ニ於テヲヤ。由是觀之。苟モ真ニ學ヲ講ジ切ニ文ヲ練ラムト欲セバ。決シテ暇ナキニアラザルナリ。決シテ爲シ難キノ業ニアラザルナリ。若シ尚ホ余ガ説ニ服セズムバ。請フ試ミニ西國立志編ヲ繕テ之ヲ閱セヨ。書中幾多ノ碩學。鴻儒。哲人。傑士ハ。果シテ如何シテ其學識ヲ涵養シタルゾ。果シテ如何シテ其心術ヲ鍛練シタルゾ。皆ナ是レ千辛万苦ノ逆境ニ處シ。蘆途惚忙ノ中ニ於テ之ヲ爲サザリシモノハナキナリ。雖然只管學術ヲ講ジテ職務ヲ第ニ義ニ置クニ至リテハ。實ニ誤謬ノ甚シキモノト謂フベシ。宜シク行テ而有餘力則以學文ノ要義ヲ失却セザルベキナリ。

第十章 身体攝生

身體攝生 五十五

致シ天下ニ馳
騁スルヲ難カ
ラス余ハ既ニ
老シテ能ク爲
スルヲ能ハス
ニ於テハ著者
宜シク獨リ余
ヲ憐ムベキノ
ミヨリ余ノ家
素ヨリ貧ナリ
且字業未タ至
ラスシテ父
父ヲ喪セリ母
ハ久ク死ニ
病篤ニ在リ弟
林尚幼ニ侍
養撫育シテ
暇マデガ
何ノ事業ニ成
事スルヲ得
殆ト朝夕
資ヲ絶テハ
々ナレバ固ヨ
リ學費ヲ得ル
方アルベキ
管ナク宛ノ南
部ニ居リ相與
ニ往來交通ス
ル者ハ皆白
蒼頭ニシテ
下欲スルモ
賜ナラズ況ン

十字ヲ問ヒ文
ヲ習フノ師友
アラシヤ是ヲ
以テ待テ之
撫育ノ力ニ
經文ヲ及復ス
ルノ今ニシ
テ之ヲ思ヘバ
何ノ誤ナキ
事リヘ教目昔
ミテ研究セシ
トベキナキ
ニ由リ字彙ノ
及切音義等マ
テ殘ラズ通読
セシトミアリ
シトリ今日ノ
如ク到ル處ニ
學校モアリ教
師モアリ書籍
モ望次第ニ手
ニ入ル時世ニ
逢ヒナガラ言
ヲ余カナキニ
此レテ可憐光
陰ヲ過スル
徒レ謂ハサル
ヲ得ス然レト
余ガ落魄坎坷
終身一事ヲモ

壯犬ハ病獅ヲ畏レズ。健雀ハ能ク疾鷲ヲ弄ス。吾人ノ才幹氣
力ハ。實ニ身体ノ強弱如何ニ據テ。其用大小ヲ致スナリ。故ニ
十分ノ智識。一分ノ体力アラムヨリハ。寧ロ十分ノ体力。一分
ノ智識アルニ加カズ。此ノ活動社會ニ於テハ勇健ナルモノ。
常ニ虛弱者ヲ壓シテ勝ヲ制スルハ理ノ正ニ觀易キモノナ
リ。夫レ工夫ノ銳。鋸利鑿モ。健腕壯手アリテコソ始メテ其用
ヲ達スベケレ。若シ其腕ニ病アリ。其手ニ力ヲ有セザラムカ。
竟ニ之ヲ用ウルニ由ナカルベシ。彼ノ身体孱弱ニシテ卓拔
ノ奇才ヲ抱ク學生ノ如キ。學校ニ於テハ講論場裏ニ牛耳ヲ
執ルト雖氏。卒業ノ際ニ至リテハ最早顔色憔悴。形容枯槁シ
テ澤畔ニ行吟スルノ屈平ニ伍シ。其實業社會ニ出ルニ至リ
テハ累々焉トシテ恰モ喪家ノ犬ノ如ク。一事ヲ成功スルコ

能ハズシテ。空シク北邙ノ塵トナルハ。已ニ讀者ノ熟知スル
所ナリ。古人云咬得菜根。百事可做。ト余ハ即チ体健而後百事可
爲ト謂ヘリ。古來解剖ニ從事セル人ノ調査ニ據レバ。偉業ヲ
爲シ遂グルノ人ハ。皆ナ概シテ多血性ノ人ニ出デザルハナ
ント。是レ畢竟貧血性ノ人ハ。譬ヒ之ヲ企テ至切奮勵スルモ。
体力ノ弱キガ爲メニ中途倦怠ヲ來タシ。若シ然ラザレバ事
業未ダ成ラズシテ。身先ツ逝クヲ以テノ故ナリ。
夫レ深窓ノ下ニ閑坐玄ヲ探リ理ヲ講ジ。部局ノ中ニ鞅掌事
ヲ理シ務ヲ處スルモノスラ。尚ホ且ツ体力健全ナラザレバ。
異常ノ激勵ハ爲シ難キモノナリ。異常ノ激勵爲シ難ケレバ。
充分其目的ヲ達シ其效果ヲ發揚スルコトハ到底望ムベカラ
ズ。況ムヤ警察官ナルモノハ。常ニ掃風淋雨。晨ニハ瘴氣ヲ冒

身體衛生

身體衛生

五十六

傲シ得ズシテ
 今日ニ至リシ
 所以ニ志氣粗
 疎ニシテ或初
 其方向ヲ誤リ
 シヲ以テナリ
 曾テ或友人ニ
 答ヘタル傍詩
 アリ其誤リヲ
 致セシ所以ヲ
 觀ルベケレバ
 亦耻ノ忍ビテ
 殷ニ書シ以テ
 其詩ニ曰ク昔
 輩平生遊取園
 驅行而多悔非
 真士事尚健老
 豈丈夫悲和悽
 風思味亦陰山
 阻水長前達濟
 川無塔層將溺
 禾可江湖伴釣
 徒

シタニハ紅塵ヲ凌ギ。或ハ炎暑ヲ衝キ嚴雪ヲ辞セズ。勤務ニ
 服セザルベカラザル而已ナラズ。時アリテハ兇暴・徒トモ
 闘フベシ。又時アリテ水火ノ難ニモ赴カザルベカラズ。若シ
 其身羸弱ニシテ事ニ耐ユル能ハザラムカ。一日モ其責ヲ盡
 シ其任ヲ全スル丁能ハザルベキナリ。警察官タルモノ体育
 ノ必要ナル丁夫レ如此。然リ而テ余ハ元來醫術ヲ學ビシモ
 ノニアラズ。又衛生法ニ通曉セシモノニアラザレバ。其攝生
 方法ノ細目如何ヲ説クニ至リテハ。甚ダ困却セザルヲ得ズ。
 然レモ平生此ノ點ニ就テハ常ニ自ラ注意ヲ怠タラズ。其切
 至努力シタル結果ハ幾分其效ヲ奏シタルモノ歟。今日ニ充
 分ノ勞苦艱難ヲ經ルモ。日ニ壯ニ月ニ健ナルヲ覺ユ。

附録

以下一條モ亦校閱者ガ茂久ノ手記ヲ以テ補フ
 余ハ七八歳ノ頃病床ニ卧シタル一アルノミニテ。爾來頑
 然健康ヲ保チ。時アリテハ通宵徹夜筆ヲ執リ。或ハ嚴冬ヲ
 衝キテ各郡區ニ出張シ。或ハ盛夏ヲ忍ムテ山村水落ヲ巡
 回スル等已往現在共ニ随分過度ナル働勞ヲ執リ。暴劇ナ
 ル氣候ヲ冒サ、ルニアラスト雖氏。却テ益勇健ニシテ軀
 幹愈發達シ。曩者東京警官練習所ニ在リテモ。余ハ學術ノ
 劣等ナル代リニ身体丈ケハ各縣警部警部補ノ一人タリ
 トモ我カ右ニ出ル丁能ハサリシハ甚ダ愉快トスル所ナ
 リシ。爾時大日本衛生會ノ体格測定所ニ至リ。之レカ精檢
 ヲ受ケシ一アリ其節同所ヨリ與ヘシ所ノ成績書ニヨレ
 ハ。体重十六貫六百八十目。体尺五尺七寸五分。胸圍二尺九

寸一分呼吸伸縮差二寸九分。活量五千六万仙達等ニシテ其摘要ニハ胸囲ハ体尺二分ノ一以上。活量ハ平常ヨリ多キ一千万仙迷握力ハ体重五分ノ四ヲ超過ス。体格ハ甲ノ甲ト云ヘル高点ヲ得タリ。同所醫學士某ハ非常ノ成績トテ大ニ之ヲ賛歎シテ措カサリシ。以上ノ如クナルヲ以テ幸ニ奉職以來。已ニ十有五年ニ至ルモ。十五歳ノ頃寒冒ノ爲メニ一日欠勤シタルト。十八歳ノ頃學友ノ遊獵スルニ陪遊シ。立花山頭ニ於テ足部ニ負傷シ。兩日間欠勤療養シタルトノミニテ。其他病氣ノ爲ニ決シテ引籠リ公務ヲ欠キタルヲ覺ヘサルナリ。

抑モ人々養生ノ法則ニ從ヒテ。真ニ能ク其身ヲ攝生自愛スレハ決シテ疾病夭死ノ患ハ勿論老境ニ及フモ口ハ義齒ヲ

挿ムニ及ハス。目ハ眼鏡ヲ掛クルノ用ナク。健全一生ヲ了ヘラルヘキハ最早一般ノ說ニシテ。實驗上ヨリ其說ヲ以テ信スヘキヲ知ルニ足ルナリ。而シテ其法則ハ人ミナ之ヲ知ルヲ得ヘシト雖。終始怠ラス之ヲ實行スルハ。實ニ難中ノ難事ナリト云フヘシ。而レモ外部ヨリスル特別ノ障害ハ。攝生家モ亦タ如何トモス可ラズ。此ヲ以テ法則ヲ疑フハ甚非ナリ。其養生法則ノ大要トハ何ゾヤ。

第一恒ニ純粹潔白ナル空氣ヲ吸收スヘキ事。

純粹ナル空氣ハ。真ニ是レ生物ヲ生活セシムルモノナレハ。若シ汚濁或ハ腐敗スレハ。其害ヤ酸烈ヲ極メ。植物タルト動物タルトヲ問ハズ。直ニ皆ナ枯死ヲ来タスモノナリ。故ニ魚テ其性分ヲ知悉シ。時ト場所トニヨリ。其原素變化シ。抱合又

ハ遊離スルノ理ニ通ジ。之レニ據テ他人ヲ保護シ。又自身ヲ愛護セザルヘカラス。即チ水竇ノ陳腐ヨリ硫化水素ヲ生ジ。人之ヲ吸入スレハ難治ノ病ヲ發シ。室内ニ多人數群集密閉スレハ。酸素減盡シテ炭酸瓦斯。人ヲ殺スカ如キ是ナリ。

第二過不及ナク。適宜滋養物ヲ食スヘキ事。

凡ソ有機物ハ皆ナ其成分。常ニ減耗スルモノナルヲ以テ。隨テ常ニ之ヲ補足セサルヲ得ズ。若シ之ヲ怠リ又ハ之ヲ補フノ法ニ違フハ。決シテ健全ヲ保ツテ能ハザルナリ。即チ之ヲ補フニハ食物ヲ以テセサルベカラズ。然リ而シテ東洋ノ佛家ハ勿論。西洋ト雖モ古代ノ名儒ヒヒさごらすノ弟子ノ如キ。クナ動物ヲ食フヲ排スルノ妄説ナキニシモアラスト雖モ。人ハ臟腑及齒ノ構造ニ據テ見レハ。菜食動物ニアラス。

肉食動物ニアラズ。臟腑ハ其長サ正ニ二動物ノ中間ニ在リ。其齒ハ二種ヲ兼ヌ。故ニ菜肉混食シ。其生ヲ維持スベキモノタルハ固ヨリ論ヲ俟タザルナリ。而シテ之ヲ食スルニハ能ク之ニ適スル榮養ノ物ヲ撰ビ。殊ニ消化ヲ速カナラシメザルベカラザルガ故ニ。飲食スルニ法アリ。飲食スルノ度アリ。飲食スベキモノアル。飲食スベカラザルモノアリ。食前食後爲スベキコトアリ。爲スベカラザルコトアリ。宜シク講究スベキナリ。

第三身体ヲ清潔ニスル事

抑モ体中ノ剌物ハ。專ラ皮膚ニ在ル無數ノ氣孔ヲ經テ。蒸發スルモノニシテ。其蒸氣ノ性分ハ。水ノ外ニ多少ノ塩類並向質分子ノ加ハリ居ルモノナレバ。此ノ二種ハ常ニ其發出シタル皮面ニ止マリ。固質ノ物層トナリ身体ヲ汚穢シ。其蒸發

ヲ妨碍シテ自由ナラシメズ。故ニ人為ヲ以テ時々之ヲ除去シ。自然ノ官能ヲ鼓舞セズムバ。決シテ健全ヲ保ツ丁能ハザルナリ。

第四筋骨精神ヲ使用スル事。

人皆ナ筋骨ト精神トヲ備フ。然シテ天之ニ賦スルニ。働クベキノ性ヲ以テス。故ニ徒然間過スレバ。必ズ患害ヲ生ズベキナリ。抑モ体質ノ剛柔強弱ハ。諸筋骨ノ各其所ヲ得テ其官能ヲ怠ルト怠ラザルトニ關ス。故ニ筋骨ヲ使用スルニ能ク其法則ニ從ヒ。皆ナ充分官能ヲ怠ラザルナリ。其形大ニ其質剛ク其力強クナルベキナリ。而シテ四肢ノ内能ク一肢ヲ使用スレバ。只僅カニ一肢ノ力ヲ強クスルニ過ギズ。即チ鐵匠ノ唯其右手ノミ大ニ。右手ノミ強キガ如シ。故ニ全体ノ強壯ヲ

保タムト欲セバ。全体ノ運動即チ擊劍ノ如キモノヲナサザルベカラズ。精神モ亦タ体カト同ジク。能ク使用スレバ其暢發スル丁益熾ニシテ。一事ヲ精研スレバ一事ノミニ敏達シ。全体ニ使用スレバ全体ニ奮興ス。尚ホ鐵匠ノ右手偉大ニシテ劍客ノ骨格剛健ナルガ如シ。而シテ其法ハ則チ一ナラズ若シ漫ニ虐使シ。或ハ漫ニ放逸スレバ其結果ハ忽チ。体力ハ軟弱トナリテ。屢々疾患ヲ惹起スベク。精神ハ愚鈍トナラザレバ。癡狂トナルベキナリ。依テ平素之ヲ精研シ置キ。職務其他事情ニ支牾ナキ限りハ之レニ從ハザルベカラズ。其他酷熱嚴寒ヲ避ケ。劇勞ヲ免カレ。適宜ノ快樂ヲ為ス等。ハ皆ナ其攝生中ノ一事項ナリト雖氏。今日警察官タル以上ハ諸事紛到シ。是等ノ丁ハ事情避ケル丁ヲ得ザルノミナラズ。

晦處曰。人生ノ境。法ハ人々ノ操。過ニ隨テ一様ナレド能ハス。ト雖此之ヲ要スルニ本草列奉スル所ノ諸日ニ付キ充ク注意ヲ盡ニセバ以テ大過ナカレベシ。特ニ暴飲暴食ハ唯養生ニ害カルノミナラス又人ノ精神ヲシテ遲鈍ナランムト正ハリ宜シク之ヲ慎ムベシ。又曰。平生精神ヲ使用スルニ慣レザル人一旦

養身術

身体攝生

六十

不慮ニ過テ盡ルハ倍ニ云フ類ノ一敬駭ノ類ニ致ス精神亂ニ故ニ精神ハ平生練習シ置カザルヘカラス而シテ之ヲ練習スルニ一時ニ事ト云フ最モ肝要ナリ平生意向一定セザル者ニ在テハ甲ノ事未ダ畢ラザルニ午チ乙ノ事終リ手ニ丙ノ業ヲ執リナカラハ心ハ既ニ丁ノ方ニ向ヘテ思量テハ然リ思量スルモ甚事ヲカ做シ得ニ然レハ亦思ヒ屈シ億リ苦ミ措神既ニ疲勞スルモ猶且休歇セザルハ是亦不可ナリ是時ハ且ラク庭園

ヲ道邊シ或ハ茶ヲ吹シナドシテ吹頭英氣ヲ養ヒ精神ヲ更ニ盛ニスルヲ待テ更ニ入息

通例之ヲ犯ス丁多シ。然レモ是ヨリシテ病ヲ發スルモノハ甚ダ少ク。蓋シ病氣ハ皆ナ余ガ前項ニ列擧セシ。四者ヲ犯スヨリ釀スモノナリト云フモ。過言ニアラザルガ如シ故ニ暫ク筆ヲ此ニ留ム。

第十一章

勤勉強耐

以上説キ來リ論ジ去リシ項目即心術。氣品。剛骨。溫和。細密。決斷。儉素。言容。勉學。攝生。等ニ於ケル十種ノ德操ヲ養ヒ終レバ。斯ニ真個ノ良警察官タル資格ニ於テ一モ欠如スル所ナキガ如シト雖モ。未ダ之ヲ以テ滿チタリトナスベカラズ。未ダ之ヲ以テ足レリトナスベカラズ。何トナレバ以上ノモノヲ備具シタリトテ。只ダ是レ砂塵ヲ蹴テ起チタル狂獅ノ如ク。空氣ヲ簸動シテ起リタル猛鷲ノ如ク。其勢ヤ容易ニ侮ル可

カラズト雖モ。之ヲ以テ果シテ能ク千里ニ馳セテ豺狼ヲ獲。果シテ能ク雲間ニ冲リテ雁鶴ヲ攫ミ得ルヤ否ヤハ未ダ以テ知ルベカラズ。依テ更ニ激勵強耐ノ一氣ヲ添へ來リ。即チ百尺ノ竿頭ニ一步ヲ進メ。万事勇進猛取。勉メテ倦マズ。忍ムテ耐ユルノ氣象ヲ具セズムバ。到底其効果ヲ收ムルヲ能ハザルナリ。

凡ソ世事ハ甚ダ蹉跌シ易ク。困難恒ニ心身ニ纏フモノニシテ。譬ヒ十全ナル德操。十全ナル技能。我ニ備ハルモ。決シテ成敗ヲ使令シ得失ヲ指揮シテ。已ガ意ニ從ハシムルヲ能ハザルナリ。羊祜曰天下不如意事十常八九。ト然レモ困難ハ是レ我ヲ玉ニスルノ良師ナレバ。困難又困難。幾層ニ及ブモ勉焉久シキニ耐ヘテ止マズムバ。即チ我が智ヲ増シ。我が才ヲ練

女言官 勤勉強耐 六十一

リ我が氣ヲ勵マスニハ。是ニ過グルノ良法ハアラザルベシ。彼ノ庸醫ハ三夕必死ヲ祈テ。始メテ國手トナリ。賢母モ三夕必居ヲ遷シテ後。始メテ其地ヲ得タリ。故ニ若シ漫リニ辛苦ヲ恐レ因難ヲ厭ヒ。自ラ鼓舞耐忍スルノ勇氣ナカラムカ。是レ即チ自ラ已レノ才幹氣力ヲ削ルノ總ヲ仕掛ケタルト一般ナリト謂フ可キナリ。嗚呼正宗ノ名刀ハ惡人ヲ殺スベク。又夕善人ヲ殺スベシ。困難ハ人ヲシテ委靡セシムベシ。又人ヲシテ樹立セシムベシ。之ヲ利用スルハ。即チ人其人ニ存スルノミ。然ラバ則チ其之ヲ利用スルノ秘訣ハ如何。曰ク唯勤勉強耐ノ一アルノミ。凡ソ百般ノ事物成就スル所以ノモノハ何ゾヤ。人ノ定心アリ。勉力アリ。忍耐アルノ結果ナリ。萬里ハ長城モ。實ニ是レ一簣ノ功ヨリ始マリ。ピラミットトノ尖塔

モ一鑿ノ勞ヨリ起レリ。敏捷伶俐。少成功。勤勉強耐多。偉功ト古人誠ニ我ヲ欺カザルナリ。

抑モ高聞令譽ハ成業遂功ノ反影ナリ。成業遂功ハ全ク勤勉強耐ノ結果ナリ。西哲曰。汝若欲得名譽勿使太陽窺見汝在汝臥床。夫レ功績ヲ奏セムト欲セバ英才アルニ非ラザレバ能ハズ。而シテ其英才トハ別ニ一種特異ノ才能アルニ非ズ。即チ勤勉強耐ノ別名ナリトハ夙ニ西哲ノ唱道セル處ニシテ。余モ又深ク之ヲ信ジテ疑ハザルナリ。凡ソ人ノ天性ハ其相去ル丁甚ダ遠カラズ。法國ノ理學家へるべちゆすちてち兩氏ノ如キハ。吾人聰明稟賦皆同等而無優劣。故彼所能則我亦從其法則課程能可得達。於彼地位ト云フニ至レリ。彼ノ絶高ナル學科偉大ナル事業ト雖氏。通常ノ資質ヲ以テ真ニ

唯獨曰世ノ輕
 薄才子ハ論ヲ
 生ノ畏ルバキ
 ハ唯勤勉強耐
 ノ人ニ在ル
 ミ上ニ來論スレ
 所ノ諸徳ヲ一
 括シテ勤勉強
 ナシテ勤勉強
 耐ノ地盤上ニ
 建立セシム最
 モ其要ヲ得タ
 リ畢竟一挫折
 ノ為ニ屈シシ
 半途ニシテ廢
 スル者ハシテ
 力足ラザルガ
 為ニ非ズ初ヨ
 リ其目的確定
 セズ志氣確立
 セズ而モ且決
 成意ヲ有シ
 ニ由ルハ
 是無氣力漢到
 成善事ヲカ成
 成善事ヲカ成

又曰古來中平
 以上而中平
 以下ノ才氣
 有スル人ニシ
 テ一朝奮勵
 勵シテ遂ニ克
 大業ヲ成シ
 タ大志ヲ成シ
 ル者ハ外ノ史
 上ニ歴々其跡
 ヲ接スルニ非
 ズ初ヨリ其志
 ハ初ヨリ其志
 確立スルヲ以
 テ失敗挫折ハ
 却テ其意昂
 度ヲ高ムル
 媒ト為リ速ニ
 克百難ニ打勝
 カルノ結果タ
 ルニ過キス豈
 ニ他ノ行アラ
 ンヤ余嘗テ親
 戚ノ子弟ヲ
 學スル者ニ贈
 リタル詩アリ
 其後羊ニ云
 運命由來未
 種盈少亦
 何堪時男子
 頑強成下亦
 唯勤勉強耐

能ク心ヲ用ヒ。勉強忍耐。屈セズ撓マズ。勞ヲ積ミ久キニ耐ヘ
 テ止マズムバ。遂ニ成功ノ境ニ達スベキナリ。
 凡ソ勤勉ノ性。忍耐ノ質モ。以上各篇ノ諸徳ト同ジク。習慣ヨ
 リ來ルモノニシテ。若シ之ニ慣ル、トキハ少シモ勞苦ヲ感
 セズ。却テ愉快ヲ感ズルモノナリ。嘗テ聞クふらんくりん築
 城ヲ監督スルニ當リ。毛布以外一物ナリ破窓鐵衾。夜々總カ
 ニ稜々ノ夢ヲ結ブニ馴レテ。竟ニ其勤勞モ辛苦ヲ感ゼズ。穩
 眠圓夢已ニ常トナリ居リシニ。異日居館ニ歸ルニ及ムテ。玉
 枕錦褥其身ニ纏フタレバ。却テ為メニ不快ヲ感ジ。一睡ヲ取
 ルノ能ハザリシト云フ。警察大尉ヘーん氏ノ如キハ。實ニ嚴
 正忠實ナル警察官ニシテ。一身惣テ警察ノ分子ヨリ成立テ。
 勤勉ノ織緯ヲ以テ組織スト謂フモ過言ニアラザルヲ信ズ。

氏各府縣巡回ニ出ルヤ。勝境ニ出ルモ之ヲ訪フナク。名區
 ニ逢フモ之レニ過リシトナシ。實ニ氏ノ眼中ニハ只警察ノ
 二字アリテ存スルノミ。警察ノ外ニハ一事ナク。警察ノ外ニ
 ハ一物ナシ。故ニ職務ノ爲メニハ如何ナル勞苦ヲモ厭フ
 ナク。如何ナル困難ヲモ辞スルナシ。現ニ昨年九州巡回セ
 シ所ノ如キ。譯官ノ言ニ據レバ。炎熱赫々タル季節ナルニモ
 關セズ。十里ノ山路ヲ歩シテ薄暮某警察署ニ着シ。直チニ調
 査ニ從事シテ。時鐘ハ已ニ午後十一時ヲ報ズルモ。尚ホ勉焉
 取調ヲナシ。少シモ倦憊ノ色ヲ顯ハサバリシヲ以テ。譯官ハ
 殆ムド困却ヲ極メシト往々アリシト余ニ自ラ言ヒキ。其勤
 勉ニシテ強耐ナルヲ。實ニ贊歎ノ外ナキナリ。元來警察官ナ
 ルモノハ。塵事紛々ノ中ニ處シ。百般ノ需要ニ應ジテ。敏活ニ

勤勉強耐
 六十三

事ヲ處セザルベカラザルモノナレバ。若シ勤勉強耐ノ賢ニ
乏シキハ。爾餘ノ技能徳操ハ。之ヲ備具シテ欠グル處ナキ
モ。何ノ用ヲモ爲サバ_ルベシ。故ニ故川路大警視ハ。其警察手
眼ニ示シテ曰ク。汝所食粟發諸額上汗ト事ニ警察ニ從_フモ
ノハ居常宜シク此金言ヲ服膺シ。彼ノ勤勞モ遂ニ辛苦ヲ感
ゼザルノ良習善慣ヲ養_フベキナリ。

増訂警官陶冶篇終

芽子の在るは
心人の在るは
香の在るは

後編 警官陶冶篇

志遠而不心人分
見事之生民

思心之起新氣

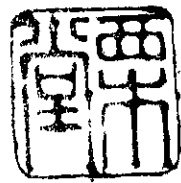
跋

右警官陶冶篇一卷故福岡縣警部松井君茂久
所著以充巡查教科者也其為書今為十一章
自心術涵養至動勉強耐內外兼該細大不遺
且文理通暢議論正大間又雜記古人之言行使人有
所感奮興起實警官必讀書也初君之在東京
警官練習所予亦在學舍筆硯相親踰年悉
君之為人君狀貌魁梧豪氣卓犖蓋有為之士
也假之以事其可為宣止於是哉而今不幸抱志而
沒惜夫然篋中一班全豹可窺才華所發雖小

可觀矣夫既沒後世之稍知此書之可用於今日冠
 安場知事題辭警視總監警保局長等序文訂
 正重鐫博領天下其傳後世無疑其亦可以顯
 於地下矣予不肖何敢自列於諸賢但有昔日
 同學之好不可忘者慨然跋之讀者幸諒之

明治二十四年六月

廣島縣警部吉原直次郎



(本館印) 7元0

明治廿二年十一月十八日出版
 明治廿四年七月十八日再版
 明治廿五年二月十八日三版

定價金拾錢

福岡縣福岡市博多中島町四十番地

版權
 所有

版權讓受發
 行兼印刷者

林 斧 介

全縣那珂郡住吉村大字住吉字七百卅七番地

著作者 故 松井茂久